

御宿町地域公共交通計画（案）

令和5年10月

御宿町地域公共交通活性化協議会

目 次

	頁
1. はじめに	1
(1) 国が示す地域公共交通の方向性	1
(2) 背景・目的.....	1
(3) 対象地域.....	1
(4) 計画期間.....	1
2. 御宿町の現状	2
(1) 位置及び地勢	2
(2) 人口・世帯数	3
(3) 交通利用特性.....	5
(4) 施設立地・生活圏	6
3. 地域公共交通の現状	7
(1) 御宿町の公共交通網	7
(2) 鉄道	8
(3) 高速バス.....	9
(4) 路線バス.....	10
(5) エビアミー号	11
(6) 公共交通に関する財政負担額	13
(7) タクシー.....	14
(8) 公共交通以外の輸送資源.....	14
(9) 移動支援事業	14
4. 上位関連計画	15
(1) 第5次御宿町総合計画～みんなで創るみんなの ONJUKU2030～	15
(2) 御宿町人口ビジョン及び御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略	15
5. 意向把握調査	16
(1) 町民アンケート調査	16
(2) ワークショップ	19
(3) 公共交通の利用者に対するアンケート調査	20
(4) 旅行者アンケート調査.....	31
(5) 事業者アンケート	34
6. 地域公共交通の課題	40
(1) 現状と課題の整理	40
(2) 公共交通の課題	41

1. はじめに

(1) 国が示す地域公共交通の方向性

国は、令和2年11月にこれまでの地域公共交通網形成計画を地域公共交通計画と改め、地域旅客運送サービス継続事業や地域公共交通利便増進事業等が創設され、地域における移動手段の確保や地域公共交通の充実を図る制度が整備された。

また、地域住民の豊かな暮らしの実現に不可欠な存在であるバス・鉄道などの地域交通について、人口減少やコロナ禍の影響で一層厳しい状況であることも踏まえ、最新のデジタル技術等の実装を進めつつ、①官と民で、②交通事業者相互間で、③他分野とも、3つの「共創」を推進し、地域交通を持続可能な形で「リ・デザイン」する方策を探るため、令和4年3月にアフターコロナに向けた地域交通の「リ・デザイン」有識者検討会を立ち上げ、検討を行った。

さらに、令和5年1月に、厳しい経営が続いている地域の鉄道やバスなど公共交通を再構築する元年と位置付け、支援を強化する方針が国土交通省より示された。

(2) 背景・目的

御宿町は、鉄道（JR 外房線）、高速バス、路線バス、一般タクシー及び乗合運行エビアミー号が公共交通として運行されているが、高齢化の進展や運転免許証返納者の増加等に伴う公共交通に係るニーズに十分に対応できていない状況にある。

そこで、今後も進展する人口減少や高齢化を見据えた交通需要を的確に把握するとともに、町内の公共交通体系の維持と各公共交通機関の連携体制の確立により、地域住民や利用者の利便性を高め、持続可能な交通網を形成するための御宿町地域公共交通計画（以下、本計画という。）を策定した。

(3) 対象地域

千葉県御宿町全域とする。

(4) 計画期間

令和6年度～令和10年度までの5年間とする。

■本計画の計画期間及び更新期間

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
第5次御宿町総合計画（R5-R12）	前期計画		後期計画				次期計画	見直し	
第2期御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略	見直し		総合計画と一体化						
御宿町地域公共交通計画	見直し					次期計画			

2. 御宿町の現状

(1) 位置及び地勢

御宿町は、千葉県の房総半島の中央部東端に位置しており、東京まで75kmの距離にあり、車利用の場合約120分、鉄道利用の場合約80分（特急利用）で行き来できる。

沖合を流れる黒潮の影響で、気候は年間を通じて温暖である。

面積は24.85km²とコンパクトな町であり、里海や里山の自然が広がっている。

海岸には約2kmに渡る真っ白な砂浜が広がり、海水浴のほか、一年を通してサーフィンをはじめとするビーチスポーツで賑わい、その砂浜は童謡「月の沙漠」発祥の地として知られている。

また、1609年、スペイン船サン・フランシスコ号がメキシコへの帰港中に岩和田沖で座礁し、当時の村民たちが総出で献身的な救出を行ったことから、「日西墨三国交通発祥記念之碑」（通称：メキシコ記念塔）を建立し、日本・メキシコ・スペインの友好の始まりの地としても知られている。

町には、岩和田漁港と御宿漁港の2つの港があり、沿岸漁業・磯根漁業を主とし、イセエビをはじめ、アワビ、サザエ、キンメダイ等、季節の水産物が水揚げされている。

■位置図



(2) 人口・世帯数

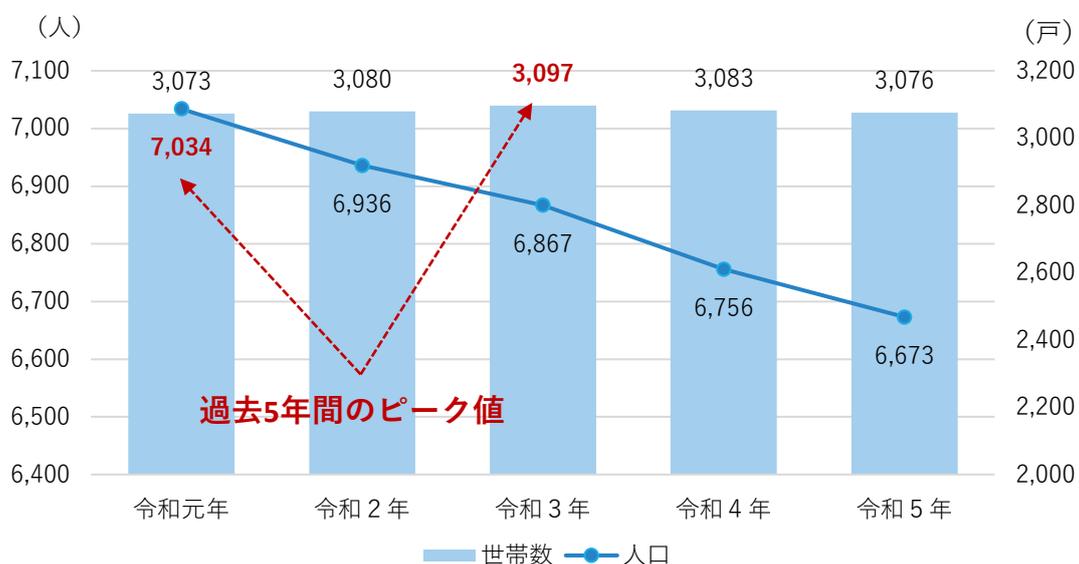
令和5年(1月1日現在)の総人口は6,673人となっており、過去5年間を見ると減少傾向にある、年少人口・生産年齢人口・老年人口の年齢3区分では、老年人口が増加しているのに対し、年少人口は年々減少傾向にある。

世帯数は令和3年をピークに微減傾向にあり、令和5年時点で3,076世帯となっている。

本町における高齢化率は国・千葉県と比較してもその値は高く50%を超えており、2人に1人は65歳以上の高齢者である。

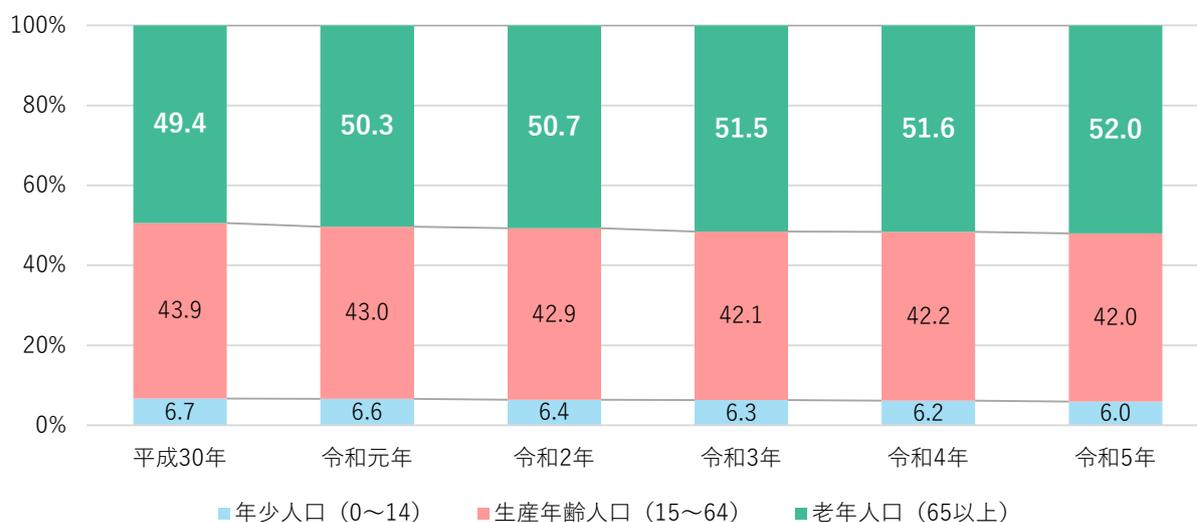
また、人口分布の状況を見ると、御宿駅を核とした中心市街地と、里海エリアである海岸沿いにかけて人口が集中している。北西部の里山エリアでは比較的人口が少なく過疎化が進んでいる状況である。

■人口と世帯数の推移



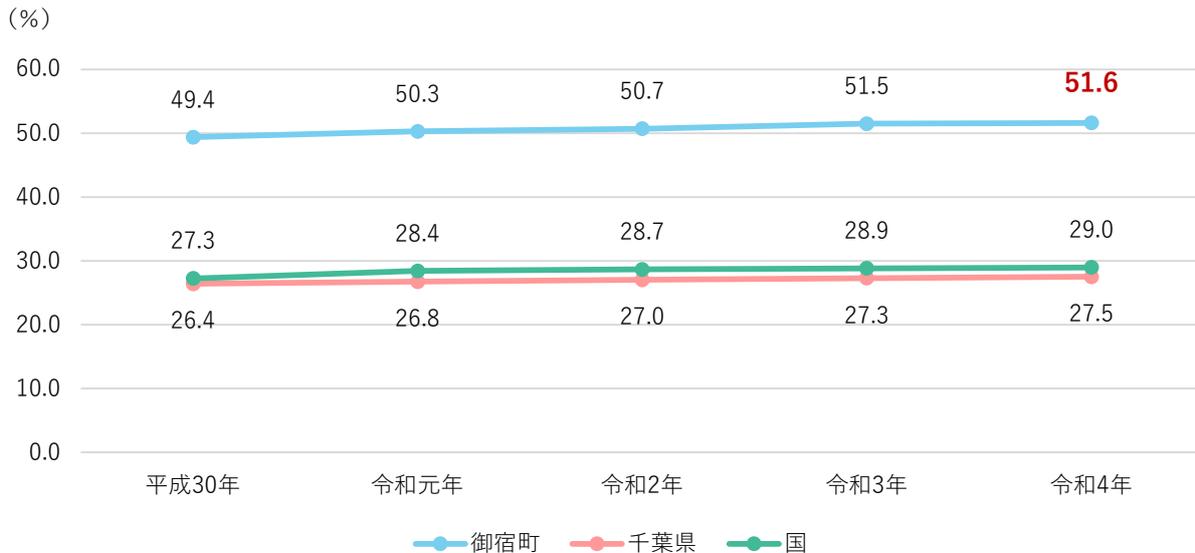
(出典) 千葉県毎月常住人口調査報告書(年報) (各年1月1日現在)

■年齢3区分別人口



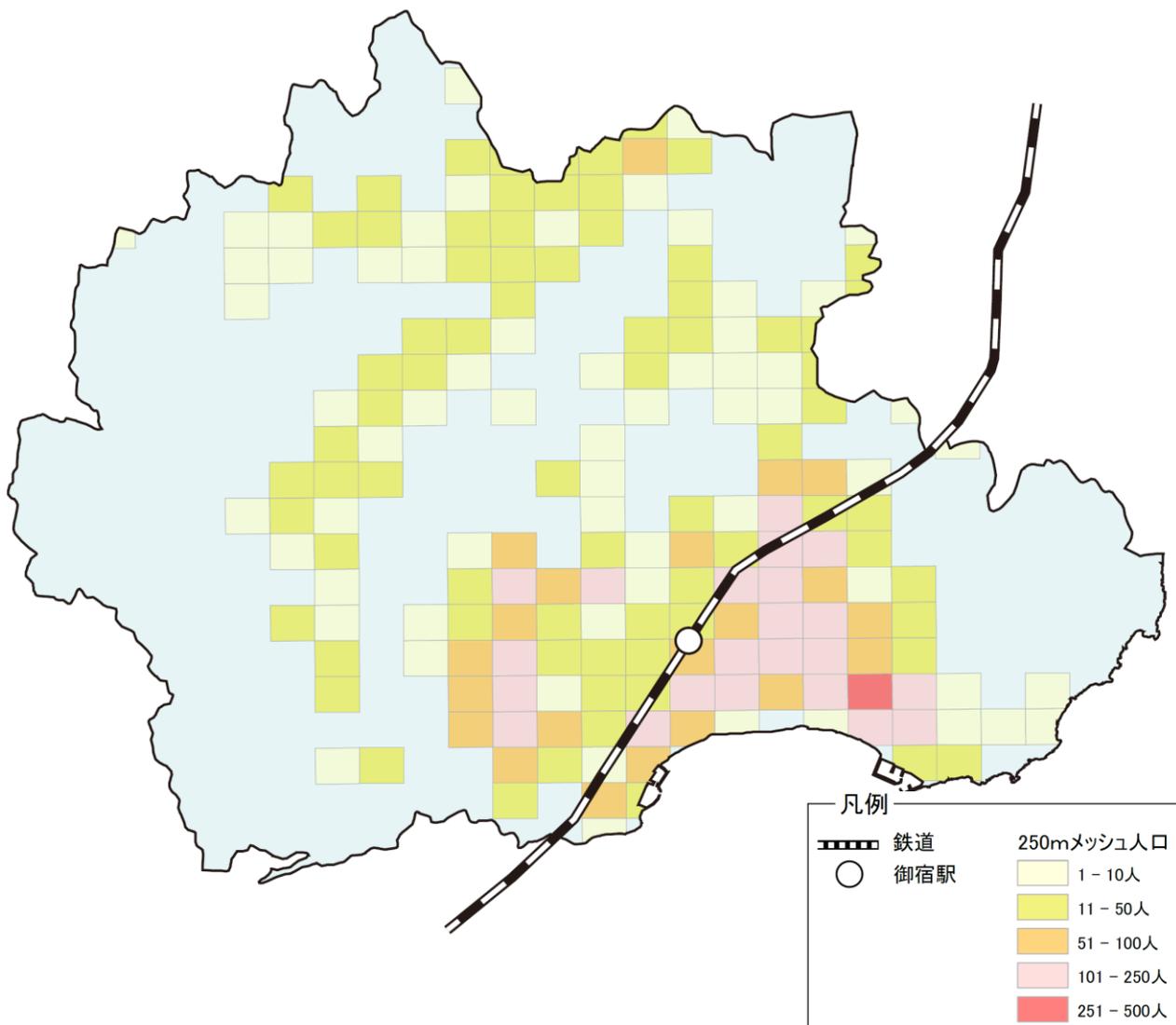
(出典) 千葉県年齢別・町丁字別人口

■ 高齢化率の推移



(出典) 平成 27 年・令和 2 年国勢調査の数値及び推計値

■ 250mメッシュ人口分布図



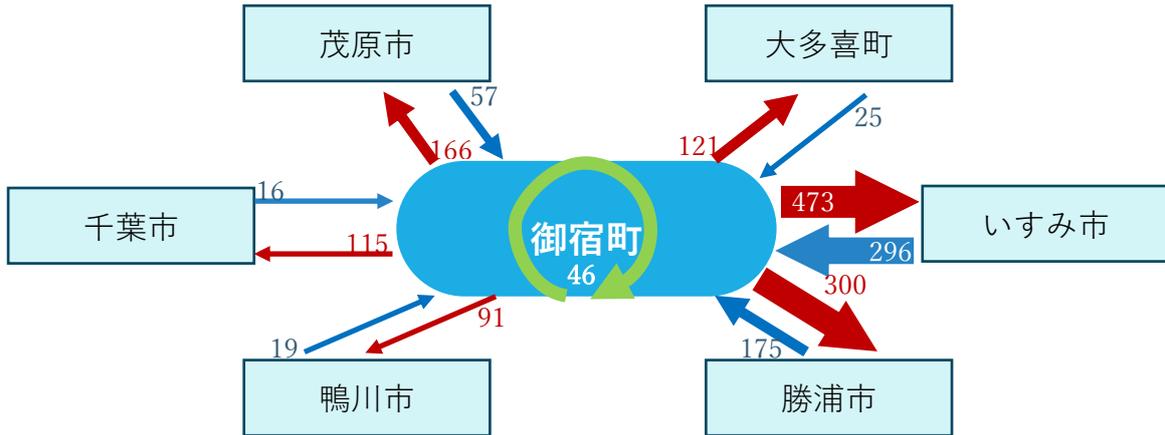
(参考) 国土数値情報及び国勢調査結果を基に作成

(3) 交通利用特性

本町の通勤・通学の流動は、医療・商業施設などの集客施設が多数立地するいすみ市と勝浦市への流出が比較的多く、2市で流出口の約61%を占める773人となっている。流入人口においてもいすみ市と勝浦市のつながりが強く、2市で流入人口の約80%を占める471人となっている。

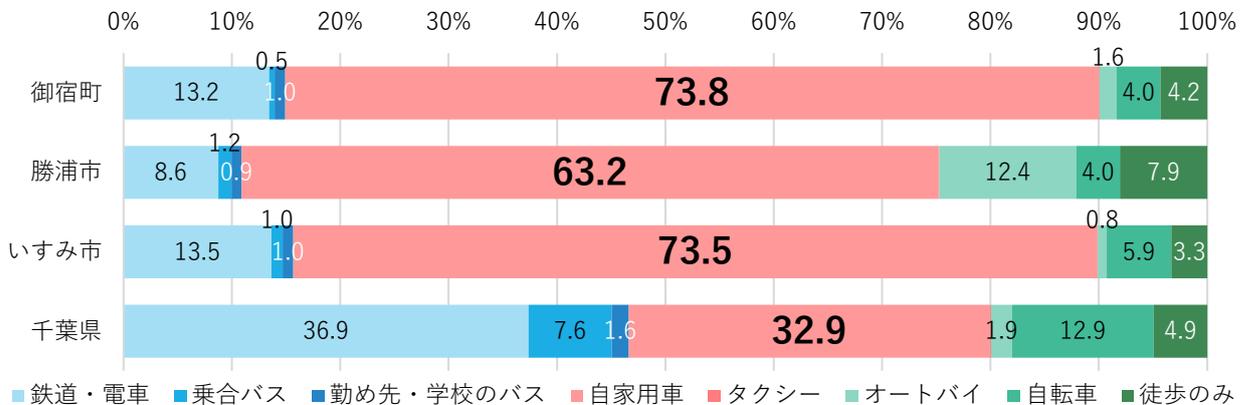
運転免許保有者数は年々減少傾向にあるものの、代表交通手段としては自家用車が73.8%となっており、千葉県や隣接地域よりも高い状況となっている。

■通勤通学流動



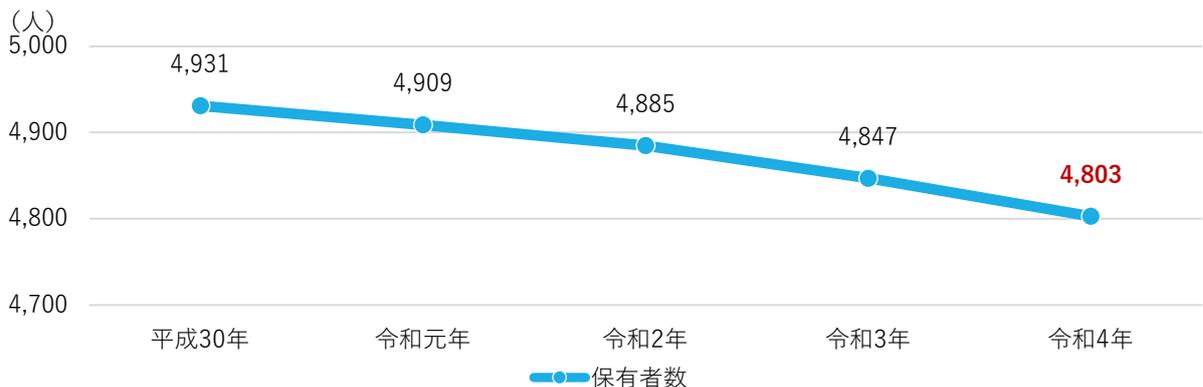
(参考) R2 国勢調査結果を基に作成

■代表交通手段



(参考) H30 パーソントリップ調査結果を基に作成

■運転免許保有状況



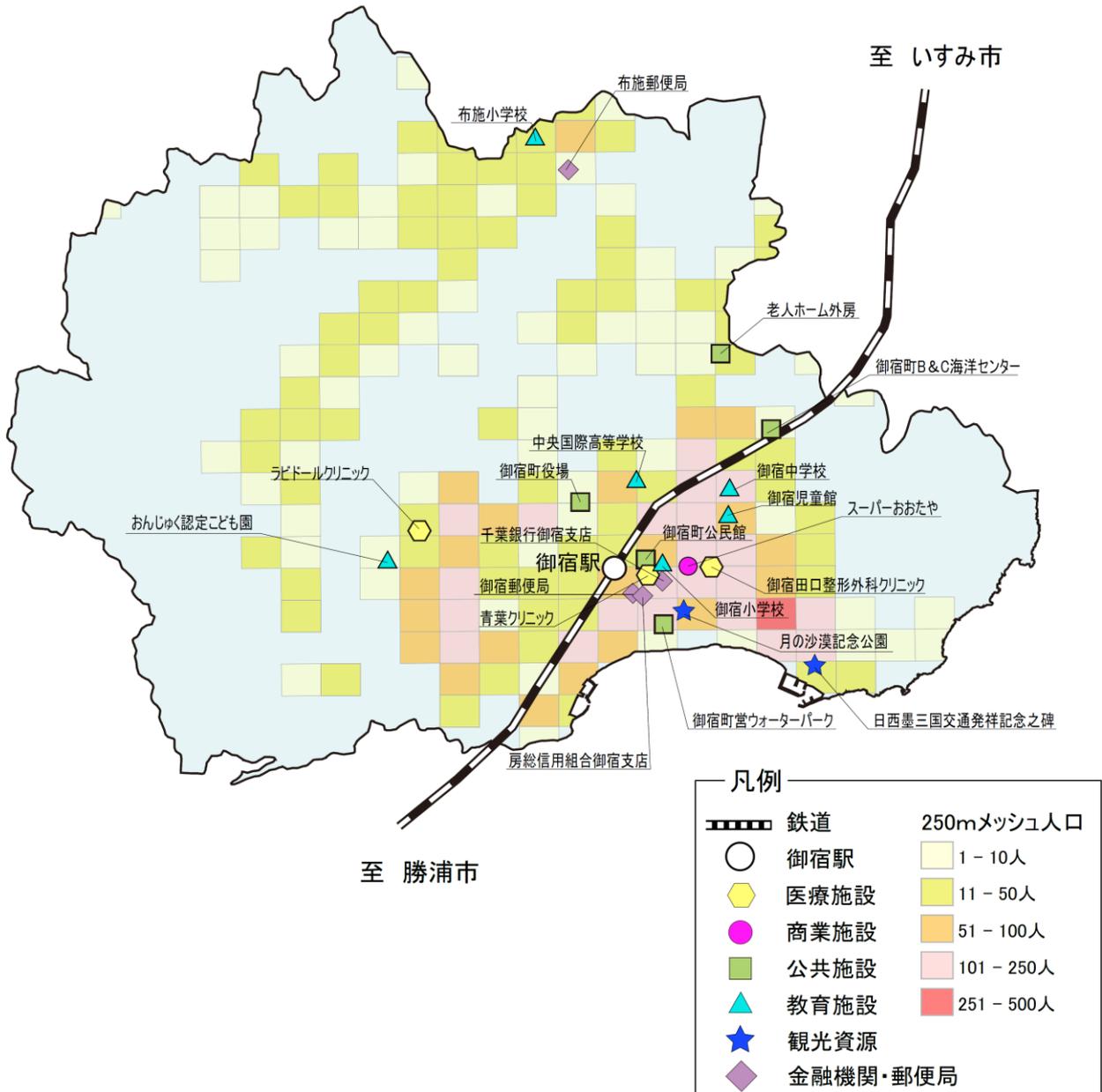
(出典) 千葉県警察公表データ (毎年12月末)

(4) 施設立地・生活圏

町内に立地している主な医療施設・商業施設・公共施設・教育施設・観光施設等について以下に示す。

図より、本町の各施設は御宿駅周辺のまちなかエリア及び御宿駅より南東の里海エリアに多く機能が集積しており、里山エリアは集客機能が低い状況であることがわかる。

■主要施設分布図



(参考) 国土数値情報及び国勢調査結果を基に作成

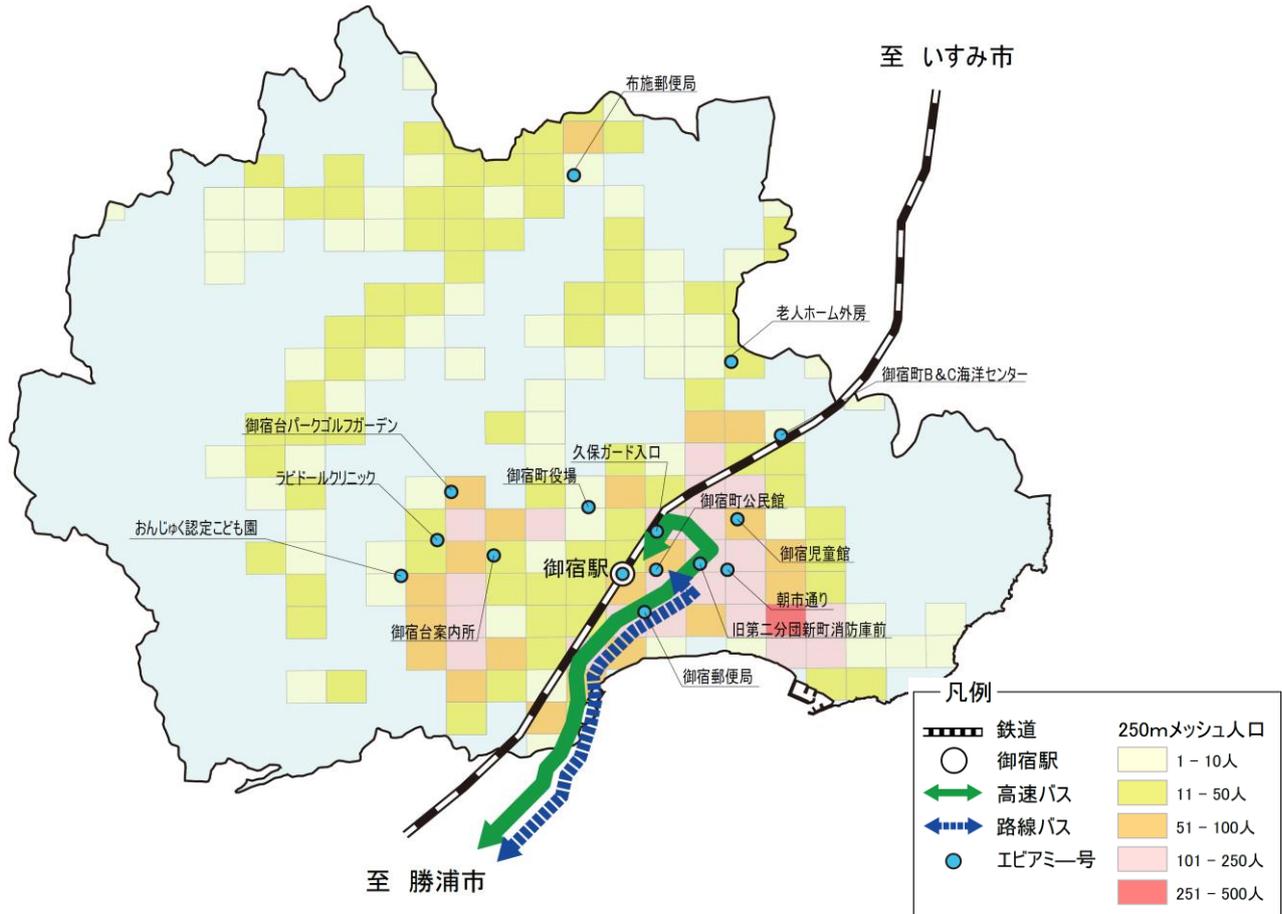
3. 地域公共交通の現状

(1) 御宿町の公共交通網

本町の公共交通として、町域を跨ぐ路線である広域交通では鉄道（JR 外房線）や高速バスがあり、地域間を結ぶ地域間交通として路線バスが整備されている。

また、町域内の移動としてエビアミー号が運行している状況である。

■現状の公共交通網図



(参考) 国土数値情報及び国勢調査結果を基に作成

■町内公共交通の運行状況

交通機関	路線等	便数/日	
		平日	土日祝
鉄道 (JR 外房線)	上り (大網・千葉方面)	33 便	35 便
	下り (勝浦・安房鴨川方面)	34 便	36 便
高速バス (御宿公民館経由)	上り (東京駅方面)	3 便	3 便
	下り (安房小湊方面)	3 便	3 便
路線バス (小湊鐵道)	勝浦-部原-御宿駅線	3 便	3 便
エビアミー号	乗合運行 (面的サービス)	8 便	8 便

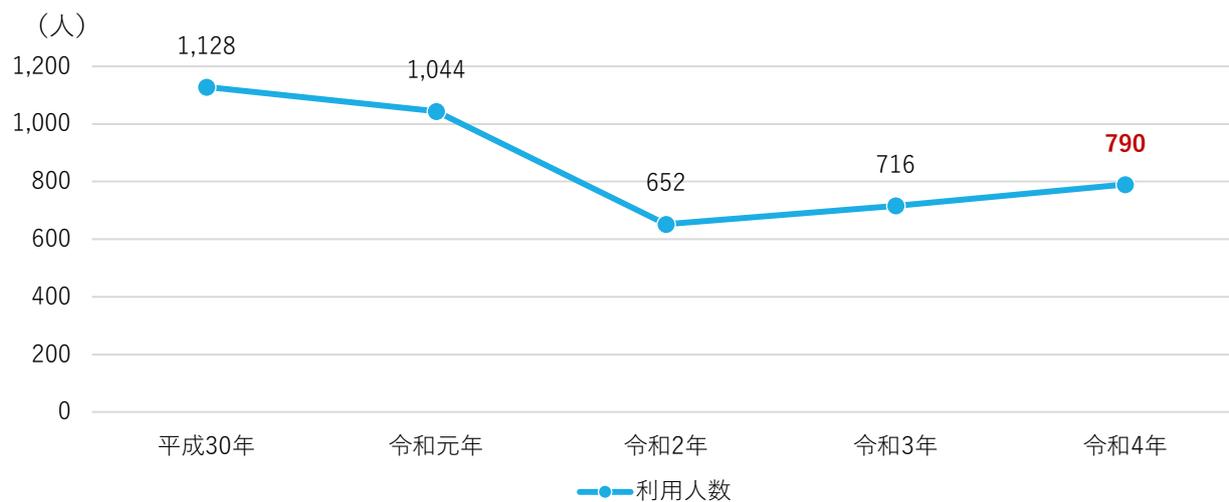
(2) 鉄道

本町南北を横断するように JR 外房線が走っており、本町唯一の鉄道駅である御宿駅を有している。

御宿駅は生活基盤を維持・向上させる事業として、JR 外房線利用者の利便性向上を図るため、御宿駅舎等のバリアフリー化に向けた協議を進めている。

御宿駅の乗降客数は、新型コロナウイルス感染症の影響等により減少傾向にあったが、令和4年で395人/日となっており、徐々に回復傾向となっている。

■乗降客数の推移（日平均）



(出典) JR 東日本駅別乗降者人員

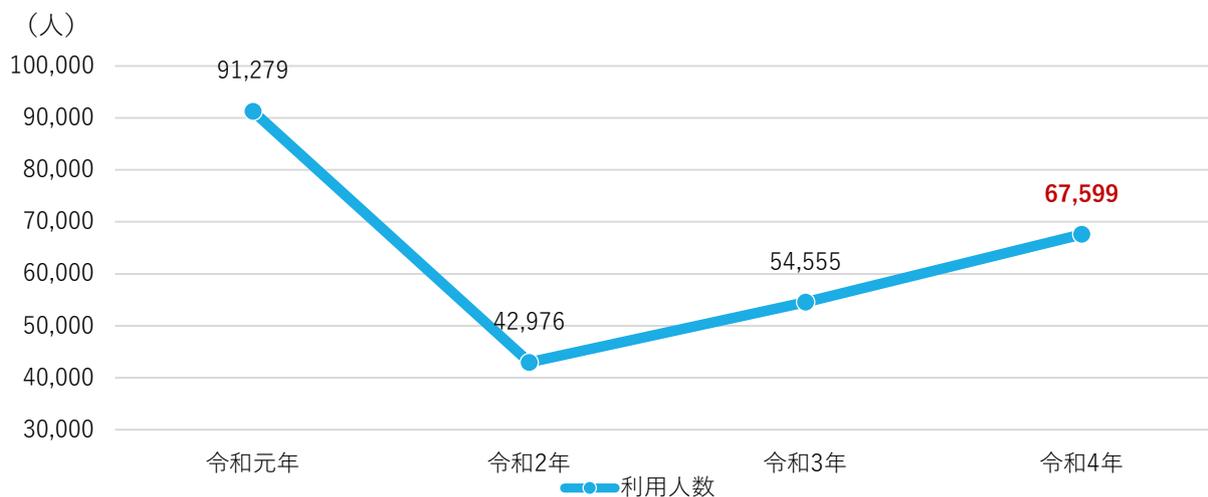
■JR 外房線 御宿駅



(3) 高速バス

御宿町公民館から東京駅八重洲口までをつなぐ高速バスが3便/日運行しており、鉄道同様、新型コロナウイルス感染症の影響等により減少傾向にあったが、令和4年で67,599人/年となっており、徐々に回復傾向となっている。

■利用者数の推移



(出典) 小湊鉄道提供資料

■高速バス車両

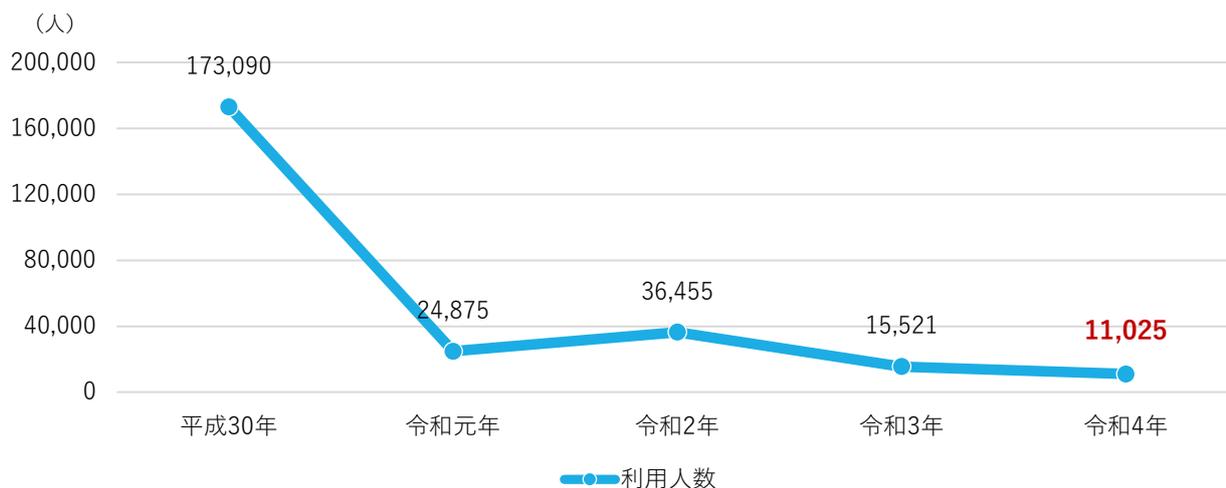


(4) 路線バス

路線バスは、小湊鐵道（株）が本町と勝浦市を結ぶ路線を運行している。

近年の利用者動向では、人口減少に加えコロナ禍による外出抑制・テレワークの普及により令和元年から大幅に減少しており、令和4年で 11,025 人と未だ利用者が戻っておらず、交通事業者の経営を圧迫している状況である。

■利用者数の推移



(出典) 小湊鐵道提供資料

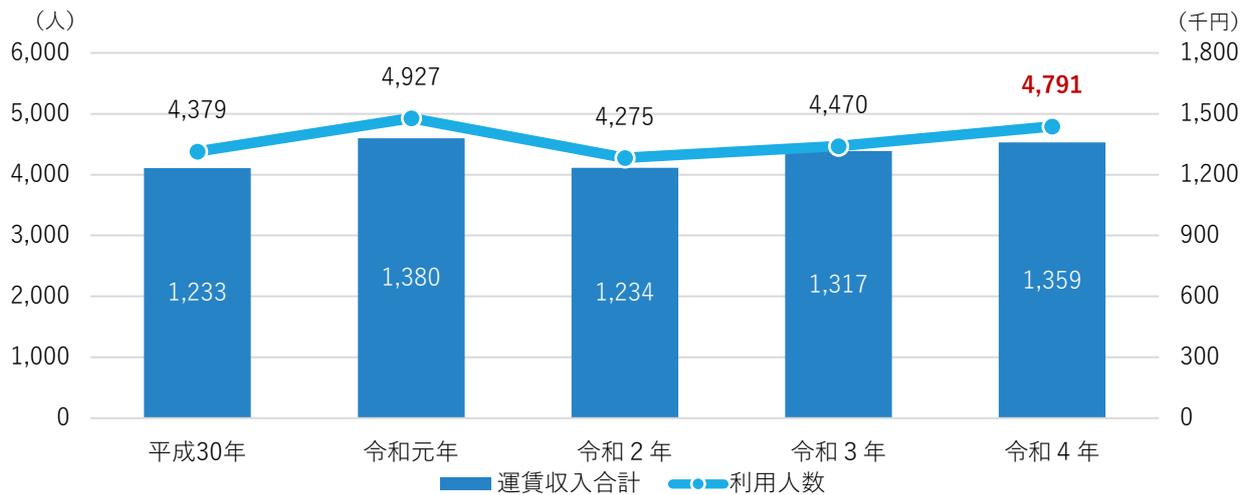
■路線バス車両



(5) エビアミー号

町全域の移動としてエビアミー号が整備されており、利用者は年々増加傾向で運賃収入も増加している一方で、1便当たりの平均乗合率は1.7人/便となっていることから、乗合率の向上が課題として挙げられる。また、いすみ市と勝浦市との結びつきが強いことから、サービスの拡大についても検討が必要である。

■利用人数と運賃収入の推移



(出典) 御宿町統計

■エビアミー号車両



■利用案内パンフレット

2021年4月1日改定

御宿町乗合運行 エビアミー号

ご利用案内

運行範囲は町内全域です。
1日8便を運行しています。

かんたん！
電話で予約

自宅までお迎えに行きます

買い物や通院に便利

共通乗降場所は全部で14か所

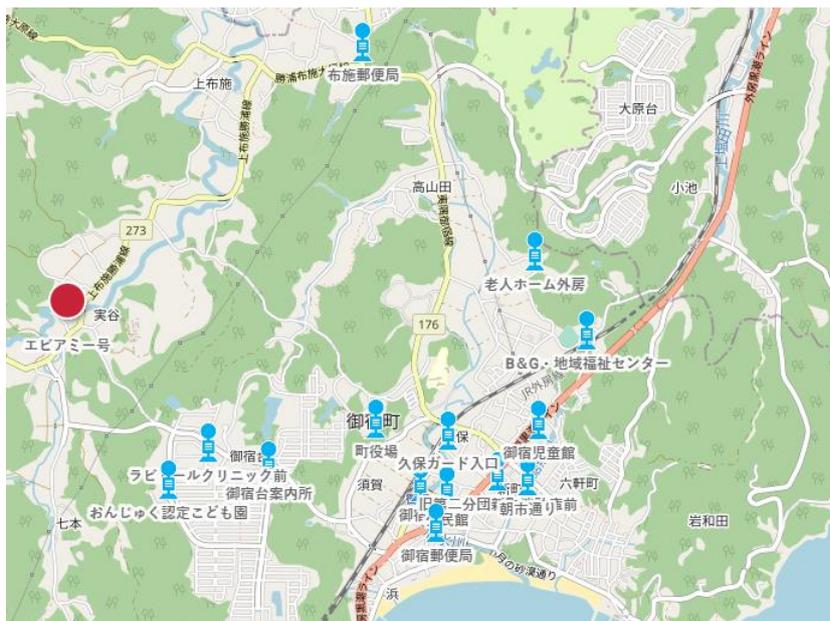
予約電話番号はこちら！ **0470-73-0550**
FAX 0470-73-0663
運行会社 小湊鉄道株式会社

区分	料金	備考
(1) 大人(中学生以上)	300円	1乗車につき
(2) 小学生	100円	1乗車につき
(3) 小学生未満	無料	保護者の同伴が必要のため、保護者分の料金として300円の運賃がかかります。
(4) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方	200円	1乗車につき
(5) 上記(4)の介助者	200円	1乗車につき

■乗降場

- ①御宿駅
- ②公民館
- ③役場
- ④第2分団新町消防庫前
- ⑤朝市通り
- ⑥B&G・地域福祉センター
- ⑦御宿児童館
- ⑧御宿郵便局
- ⑨御宿台案内所
- ⑩御宿台パークゴルフガーデン
- ⑪久保ガード入り口
- ⑫布施郵便局
- ⑬おんじゅく認定こども園
- ⑭老人ホーム外房

■位置情報サービス



■利用料金

項目	料金	備考
(1) 大人（中学生以上）	300 円	1 乗車につき
(2) 小学生	100 円	1 乗車につき
(3) 小学生未満	無料	保護者分は 300 円
(4) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方	200 円	1 乗車につき
(5) 上記（4）の介助者	200 円	1 乗車につき

■運行ダイヤ

第1便	第2便
7:30~8:30	8:30~9:30
第3便	第4便
9:30~10:30	10:30~11:30
第5便	第6便
11:30~12:30	12:30~13:30
第7便	第8便
15:30~16:30	16:30~17:30

■予約方法

エビアミー号を予約する方法

自宅（付近）から目的地（共通乗降場所）に行く場合

(1) エビアミー号を電話で予約します。

予約電話番号は、0470-73-0550

(2) 登録証にある①登録番号、②名前、③利用される時間

④行き先をお伝えください。➡ **お出かけの予約完了**



共通乗降場所から、自宅（付近）に帰る場合

(1) エビアミー号を電話で予約します。0470-73-0550

(2) 登録証にある①登録番号、②名前、③利用される時間

④行き先をお伝えください。➡ **お帰りの予約完了**



※1) 自宅（付近）から目的地に行く予約時に、帰りの便を予約することもできます。
 ※2) 共通乗降場所から共通乗降場所へ行く場合も同じように予約してください。

問い合わせ先 御宿町企画財政課 電話0470-68-2512（直）

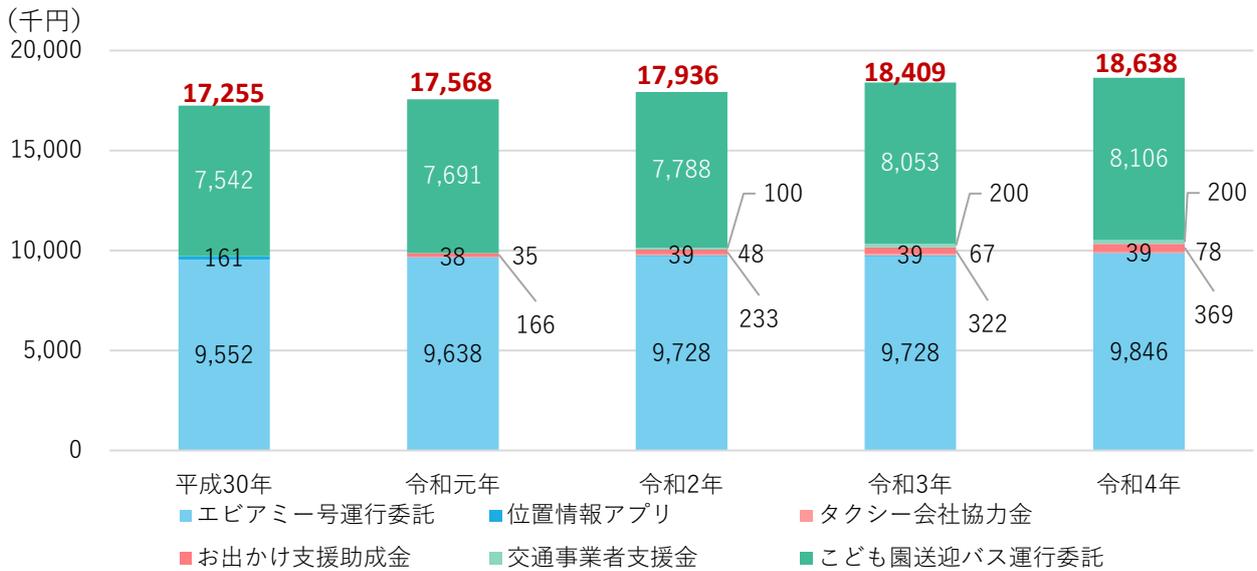
(6) 公共交通に関する財政負担額

公共交通に関する財政負担額は年々増加傾向にあり、令和4年で18,638千円となっている。

割合を多く占める事業としては、エビアミー号運行委託費で9,846千円と総負担額の約53%を占めており、次いでこども園送迎バス運行委託として8,106と総負担額の約44%を占めている。

エビアミー号の収支率（運賃収入/運行委託費）は令和4年で13.8%と低い数値となっており、今後も、運行委託費の増加等が予想されるため、モビリティ・マネジメントによる町民の利用促進や来訪者の公共交通への転換等による運賃収入の増加により、持続可能な公共交通を目指す必要がある。

■財政負担額の推移



(出典) 御宿町統計

■エビアミー号の収支率



(出典) 御宿町統計

(7) タクシー

本町を営業地域とする事業者は、エミタスタクシー南総（株）の1社であり、待機所が町内に立地している。

■町内を運行しているタクシー会社

会社名	分類	待機所所在地	登録台数
エミタスタクシー南総（株）	待機所	御宿駅	19台

(8) 移動支援事業

移動支援事業としては、以下の事業を実施している。

■移動支援事業一覧

事業名	対象	内容
障害者(児)移動支援事業	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている方	屋外での移動に困難がある障害者(児)について、外出のための支援を行うことにより、障害者等の地域での自立生活及び社会参加を促進 【利用料】原則1割負担
福祉タクシー事業	以下のいずれかに該当する方 ・身体障害者手帳1・2級の方 ・療育手帳の交付を受けた方 ・精神障害者保健福祉手帳1・2級の方	重度の心身障害者(児)の社会参加を促進するため、タクシー料金の一部を助成 【交付枚数】年間で最大36枚(申請月により交付枚数が異なる)
障害者運転免許取得費助成	身体障害者手帳1～4級または療育手帳の所持者であって、運転免許証の交付を受けた方	身体障害者または知的障害者が自動車免許を取得する場合に要する経費の一部を助成 【対象経費】自動車免許証取得のために要した教習費 【助成額】教習費の2/3以内で、10万円を限度とする額
お出かけ支援事業	エピアミー号を利用した方(小学生未満、障がい者の介助者を除く。ただし小学生未満の障がい者の介助者は対象。)	タクシー料金の半分(10円単位未満切り捨て)を割引 深夜割増がある場合は、それらを適用した後の料金から割引 【助成額】タクシー料金の半額割(最大500円限度)

4. 上位関連計画

(1) 第5次御宿町総合計画～みんなで創るみんなの ONJUKU2030～

【策定年度】	令和5年3月								
【計画期間】	令和5年度～令和12年度まで								
【将来像】	ひと・マチ・自然がつながり つなげる「ちょうどいいまち」御宿								
【目標の柱】	<table border="0"> <tr> <td>1. つながる【協働・行政運営】</td> <td>2. 備える【防災・安心・安全】</td> </tr> <tr> <td>3. 支え合う【福祉・医療】</td> <td>4. 育む【子育て・教育】</td> </tr> <tr> <td>5. 引き継ぐ【自然・文化】</td> <td>6. 住まう【住環境】</td> </tr> <tr> <td>7. 生み出す【産業・観光】</td> <td></td> </tr> </table>	1. つながる【協働・行政運営】	2. 備える【防災・安心・安全】	3. 支え合う【福祉・医療】	4. 育む【子育て・教育】	5. 引き継ぐ【自然・文化】	6. 住まう【住環境】	7. 生み出す【産業・観光】	
1. つながる【協働・行政運営】	2. 備える【防災・安心・安全】								
3. 支え合う【福祉・医療】	4. 育む【子育て・教育】								
5. 引き継ぐ【自然・文化】	6. 住まう【住環境】								
7. 生み出す【産業・観光】									

<p>■公共交通の位置づけ</p> <p>≪施策の方針≫ 誰もが利用しやすい地域交通となるよう、鉄道及び路線バス等の維持・充実に向けた取組みを進める。</p> <p>≪町が取り組むべきこと≫</p> <p>○地域公共交通の維持充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 外房線における輸送サービスの維持・充実 ・ 御宿町地域公共交通計画の策定 ・ 御宿町地域公共交通活性化協議会の開催 ・ 御宿駅のバリアフリー化の推進 <p>○住民の移動手段の維持と利便性の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗合運行エビアミー号の運行・充実 ・ タクシー、路線・高速バスの維持・充実 ・ いすみ鉄道輸送安全対策
--

(2) 御宿町人口ビジョン及び御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略

【策定年度】	令和3年3月改定（平成27年10月策定）						
【計画期間】	令和3年度～令和6年度						
【基本目標】	<table border="0"> <tr> <td>1. 地域産業の創生と雇用の拡大</td> <td>2. 移住定住促進と関係人口の創出・拡大</td> </tr> <tr> <td>3. 安心して子育てできるまちづくり</td> <td>4. 高齢者が安心して住み続けられる環境づくり</td> </tr> <tr> <td>5. 好循環を支えるまちづくり</td> <td></td> </tr> </table>	1. 地域産業の創生と雇用の拡大	2. 移住定住促進と関係人口の創出・拡大	3. 安心して子育てできるまちづくり	4. 高齢者が安心して住み続けられる環境づくり	5. 好循環を支えるまちづくり	
1. 地域産業の創生と雇用の拡大	2. 移住定住促進と関係人口の創出・拡大						
3. 安心して子育てできるまちづくり	4. 高齢者が安心して住み続けられる環境づくり						
5. 好循環を支えるまちづくり							

<p>■公共交通の位置づけ</p> <p>施策①：持続可能な地域公共交通の確保と利用促進</p> <p>▽数値目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象項目</th> <th>現状値 (R1)</th> <th>目標値 (R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共交通利用者数 (年間)</td> <td>391,500 人</td> <td>400,000 人</td> </tr> <tr> <td>エビアミー号利用者数 (年間)</td> <td>4,755 人</td> <td>5,358 人</td> </tr> </tbody> </table>	対象項目	現状値 (R1)	目標値 (R5)	公共交通利用者数 (年間)	391,500 人	400,000 人	エビアミー号利用者数 (年間)	4,755 人	5,358 人
対象項目	現状値 (R1)	目標値 (R5)							
公共交通利用者数 (年間)	391,500 人	400,000 人							
エビアミー号利用者数 (年間)	4,755 人	5,358 人							

5. 意向把握調査

(1) 町民アンケート調査

調査概要	【日時】 2022年5月～2022年6月 【方法】 郵送配布・郵送回収 【対象】 御宿町内に在住する18歳以上の住民1,200人 (年齢及び地域別の人口構成に配慮したうえで無作為抽出)			
回答数	n=509			
内訳	【性別】			
	男性	236 (46.4%)	無回答	4 (0.8%)
	女性	265 (52.1%)		
内訳	【年齢】			
	10歳代	4 (0.8%)	60歳代以上	109 (21.4%)
	20歳代	28 (5.5%)	70歳代	148 (29.1%)
	30歳代	51 (10.0%)	80歳代以上	3 (0.6%)
	40歳代	85 (16.7%)	不明	2 (9.4%)
	50歳代	79 (15.5%)		
内訳	【住まい】			
	まちなか	186 (36.5%)	里海	137 (26.9%)
	御宿台	118 (23.2%)	不明	6 (1.2%)
	里山	62 (12.2%)		

【通勤・通学における利用交通手段】

- ・通勤・通学における利用交通手段は、「通勤または通学をしていない」を除き、「自家用車 (56.2%)」が最も多く、次いで「鉄道 (11.0%)」「自転車 (5.3%)」となっている。
- ・年代別に見ると、30代と40代では「自家用車」が80.0%を超えており、10代・20代では他の年齢層と比較して「鉄道 (34.4%)」の利用が高い傾向にある。

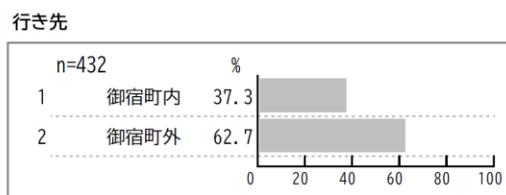
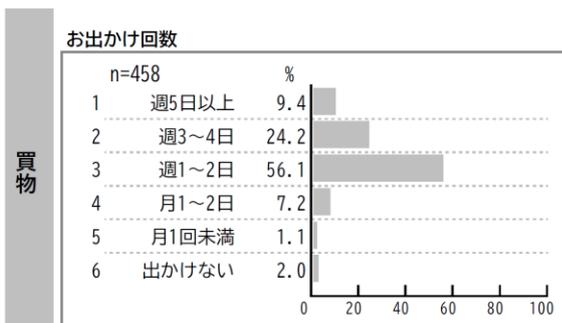
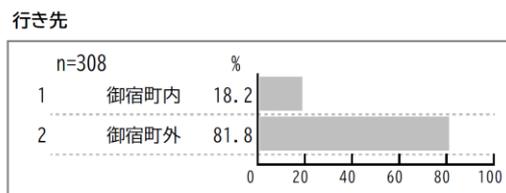
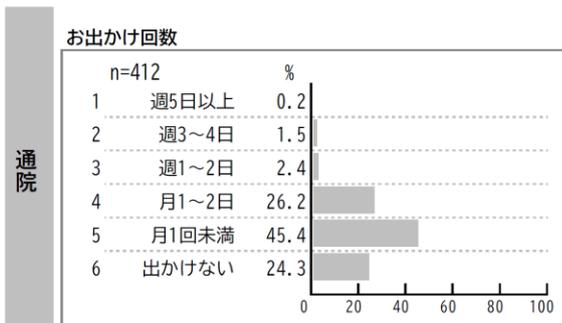
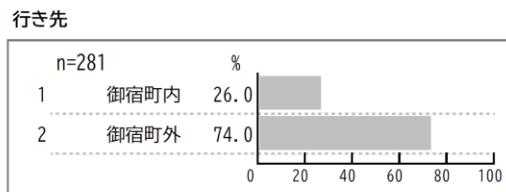
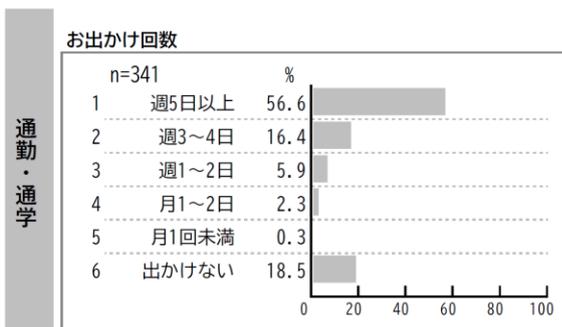
■通勤・通学における利用交通手段

クロス集計 (単位: % ※nを除く)	全体	年齢別						地域別		
		10・20代	30代	40代	50代	60代	70代	南東部	北西部	御宿台
n	511	32	51	86	80	109	151	325	62	118
徒歩のみ	2.9	-	3.9	5.8	3.8	1.8	2.0	4.3	1.6	-
鉄道	11.0	34.4	13.7	8.1	15.0	5.5	8.6	11.7	11.3	8.5
バス	1.8	-	2.0	2.3	2.5	2.8	0.7	2.2	1.6	0.8
勤務先・学校のバス	1.0	-	2.0	-	1.3	2.8	-	1.2	1.6	-
自家用車	56.2	62.5	80.4	80.2	73.8	47.7	29.1	57.2	64.5	49.2
ハイヤー・タクシー	0.8	-	-	-	-	-	2.6	0.9	-	0.8
バイク	1.2	-	2.0	1.2	2.5	1.8	-	1.2	3.2	-
自転車	5.3	9.4	9.8	4.7	6.3	3.7	4.0	5.5	6.5	4.2
その他	0.6	3.1	-	-	-	1.8	-	0.3	-	1.7
通勤または通学をしていない	19.8	6.3	7.8	11.6	7.5	27.5	32.5	18.8	11.3	25.4
不明	17.8	6.3	3.9	3.5	6.3	19.3	38.4	17.2	19.4	19.5

【日常生活における移動実態】

- ・通勤・通学におけるお出かけ回数は、「週5日以上(56.6%)」が最も高く、行き先は「御宿町外(74.0%)」となっている。
- ・通院におけるお出かけ回数は、「月1回未満(45.4%)」が最も高く、次いで「月に1～2日(26.2%)」となっており、行き先は「御宿町外(81.8%)」となっている。
- ・買物におけるお出かけ回数は、「週1～2日(56.1%)」が最も高く、次いで「週に3～4日(24.2%)」となっており、行き先は「御宿町外(62.7%)」となっている。

■目的別のお出かけ回数・行き先



※いずれも不明・無回答を除いて集計

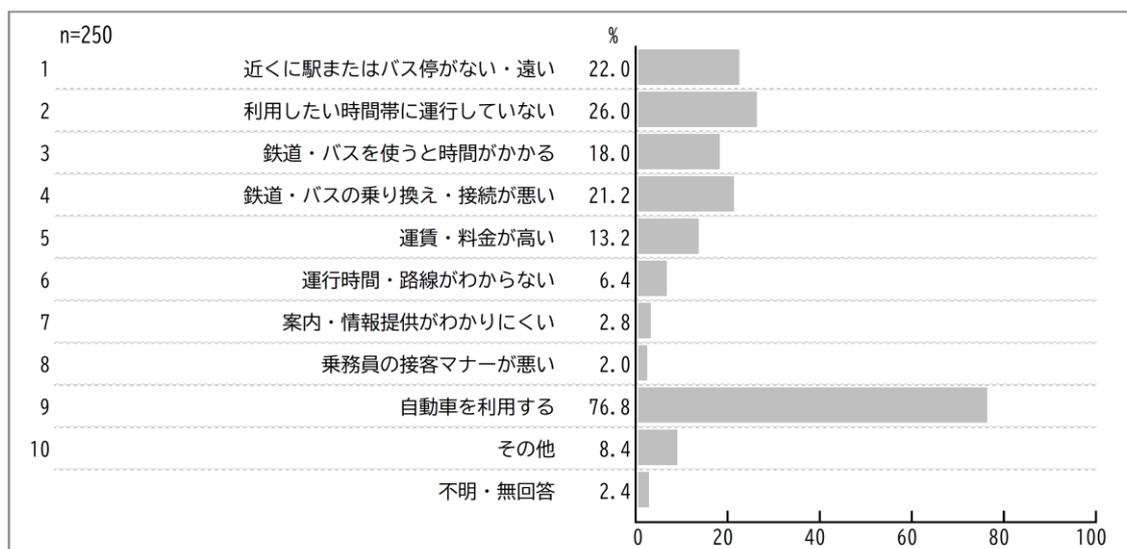
【公共交通の利用実態】

- 公共交通の利用実態について、30歳代～60歳代では「利用したいと思わない・利用しない」が最も多い一方、10・20歳代では「日常的に利用している（34.4%）」が最も多く、70歳代では「現在は利用していないが、今後利用したい（31.1%）」が最も多い。また、「現在は利用していないが、今後利用したい」は年齢が上がるにつれて割合が増えている。
- 公共交通を利用しない・利用しなくなった理由としては、「自動車を利用する（76.8%）」が最も多く、次いで「利用したい時間帯に運行していない（26.0%）」「近くに駅またはバス停がない・遠い（22.0%）」となっている。

■公共交通の利用状況

クロス集計 (単位：% ※nを除く)	全体	年齢別						地域別		
		10・20代	30代	40代	50代	60代	70代	南東部	北西部	御宿台
n	511	32	51	86	80	109	151	325	62	118
日常的に利用している	17.2	34.4	15.7	11.6	25.0	15.6	14.6	18.2	14.5	16.9
最近になって利用しはじめた	2.7	3.1	2.0	2.3	2.5	2.8	3.3	3.7	1.6	0.8
現在は利用していないが、今後利用したい	20.5	6.3	9.8	12.8	18.8	22.0	31.1	20.9	21.0	19.5
利用していたが、利用するのをやめた	13.9	31.3	25.5	14.0	12.5	14.7	6.0	12.6	17.7	15.3
利用したいと思わない・利用しない	28.6	15.6	41.2	45.3	33.8	23.9	18.5	29.5	24.2	28.0
どのように運行しているかわからないので利用しない（利用できない）	6.5	6.3	3.9	9.3	3.8	7.3	6.6	4.9	8.1	9.3
不明	10.6	3.1	2.0	4.7	3.8	13.8	19.9	10.2	12.9	10.2

■利用しない・利用しなくなった理由



(2) ワークショップ

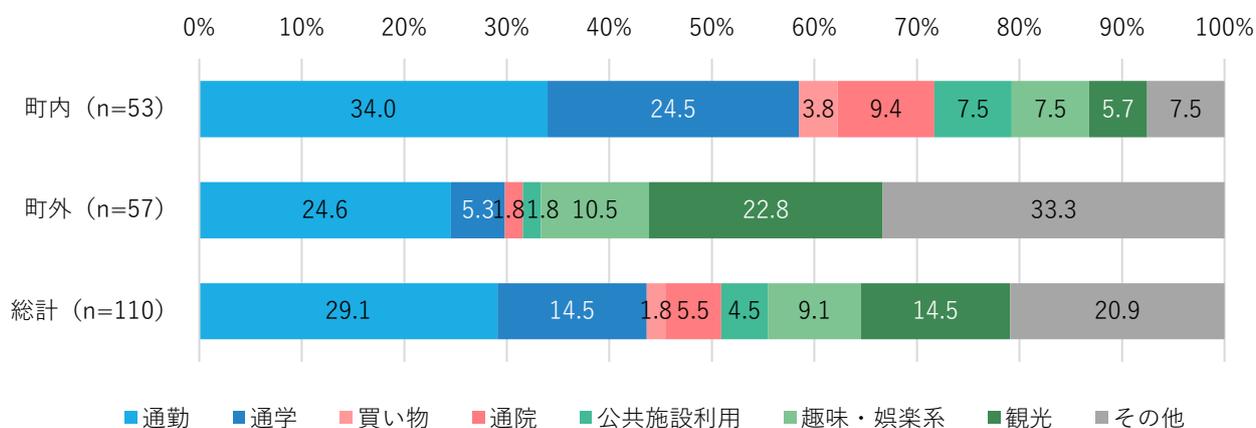
(3) 公共交通の利用者に対するアンケート調査

① 鉄道利用者

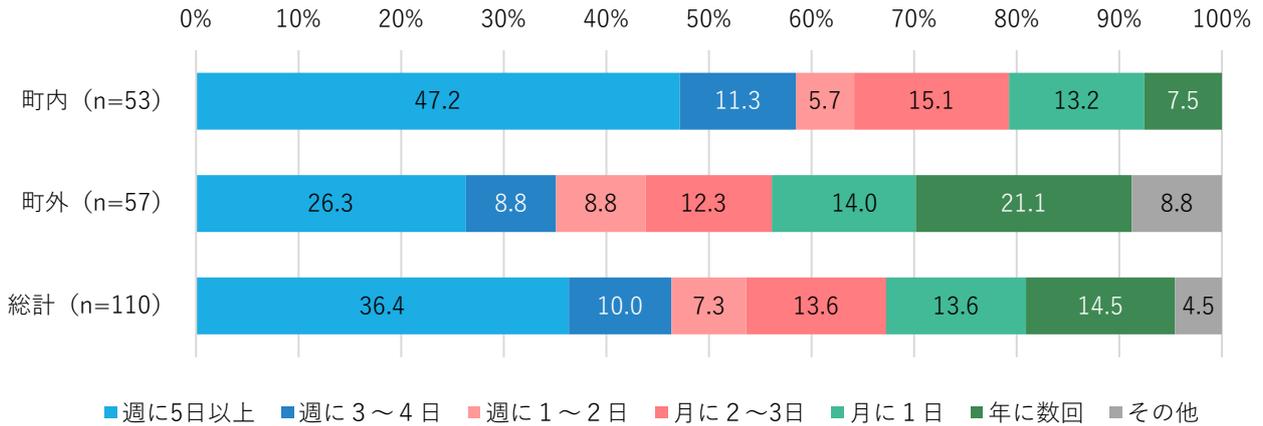
調査概要	【日時】 2023年7月19日(水) 6:00~20:00 【場所】 御宿駅 【方法】 調査員が駅利用者に対し直接ヒアリング			
回答数	n=110			
内訳	【性別】			
	男性	57 (51.8%)	女性	53 (48.2%)
	【年齢】			
	10歳代	15 (13.6%)	50歳代	14 (12.7%)
	20歳代	18 (16.4%)	60歳代	18 (16.4%)
	30歳代	9 (8.2%)	70歳代	15 (13.6%)
	40歳代	15 (13.6%)	80歳代以上	5 (4.5%)
			無回答	1 (0.9%)
	【住まい】			
	町内	53 (48.2%)	町外	57 (51.8%)

- ・利用目的は町内外ともに「通勤」が最も多く、次いで町内では「通学(24.5%)」、町外では「観光(22.8%)」となっている。
- ・利用頻度は町内外ともに「週に5日以上」が最も多く、特に町内では47.2%と半数近くを占めている。
- ・満足度は、総合的には満足度(満足+やや満足)が40.0%となっている。項目別に見ると、「運行本数」と「運行時間帯」が他の項目と比較して不満足度(不満+やや不満)が高く、満足度が低い傾向にあり、「運行時刻の定時制(正確さ)」は満足度が高く不満足度が低い傾向にある。
- ・鉄道に対する要望としては、「運行時間帯の拡大」「運行本数の増便」がいずれも50.0%以上となっている。その他としては、エスカレーターやエレベーターの設置に関する意見が多い。

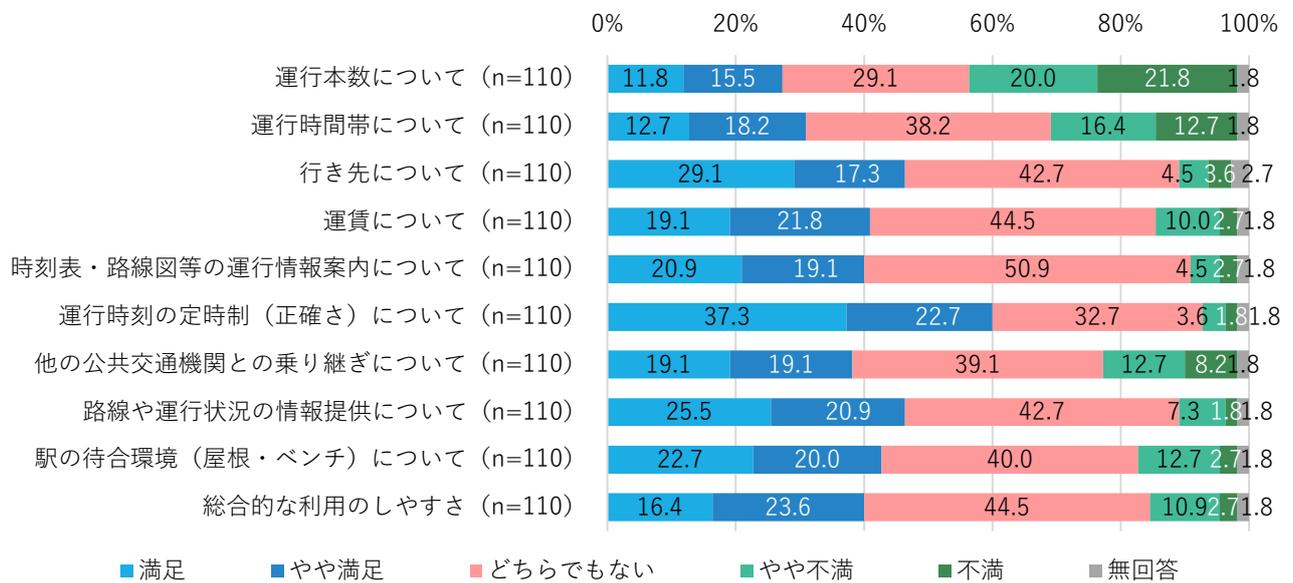
■ 利用目的



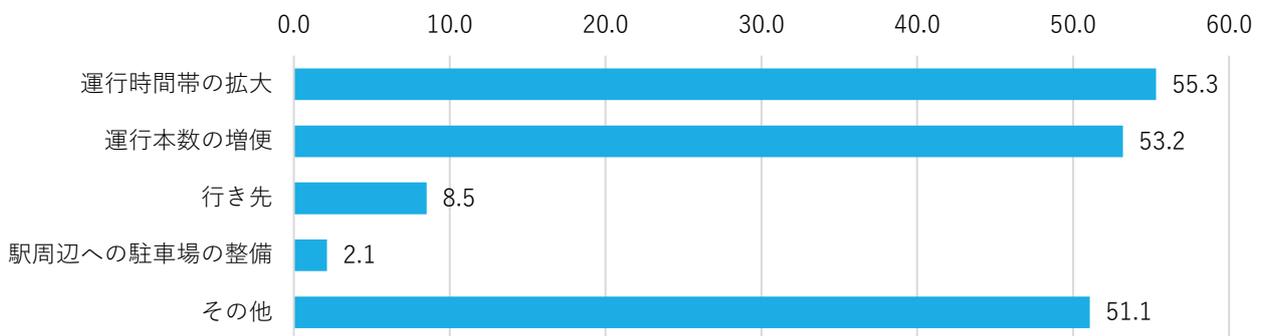
■利用頻度



■満足度



■鉄道に対する要望

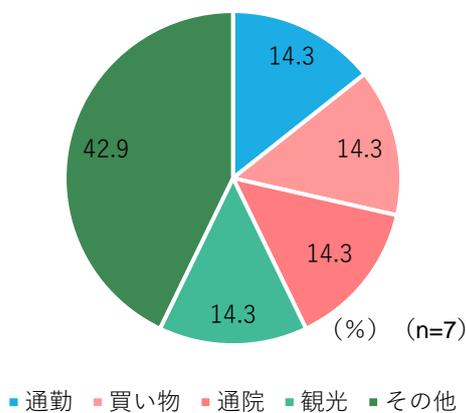


②高速バス利用者

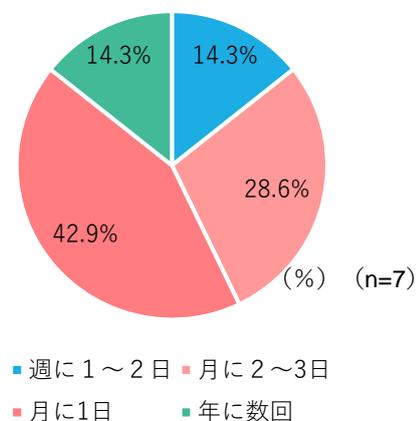
調査概要	【日時】 2023年7月19日（水）6:00～20:00 【場所】 御宿町公民館 【方法】 調査員が駅利用者に対し直接ヒアリング			
回答数	n=7			
内訳	【性別】			
	男性	0 (0.0%)	女性	7 (100.0%)
	【年齢】			
	40歳代	1 (13.6%)	70歳代	2 (29.0%)
	50歳代	1 (14.3%)	80歳代以上	2 (29.0%)
60歳代	1 (14.3%)			
【住まい】	町内	2 (29.0%)	町外	5 (71.4%)

- ・利用目的は「通勤」が最も多く、次いで「買い物」「通院」「観光」、その他では「別荘への避暑」等が挙げられている。
- ・利用頻度は「月に1回（42.9%）」が最も多く、次いで「月に2～3日（28.6%）」となっている。
- ・高速バスへの要望としては「運行本数の拡大」や「行き先」といった声が挙げられている。

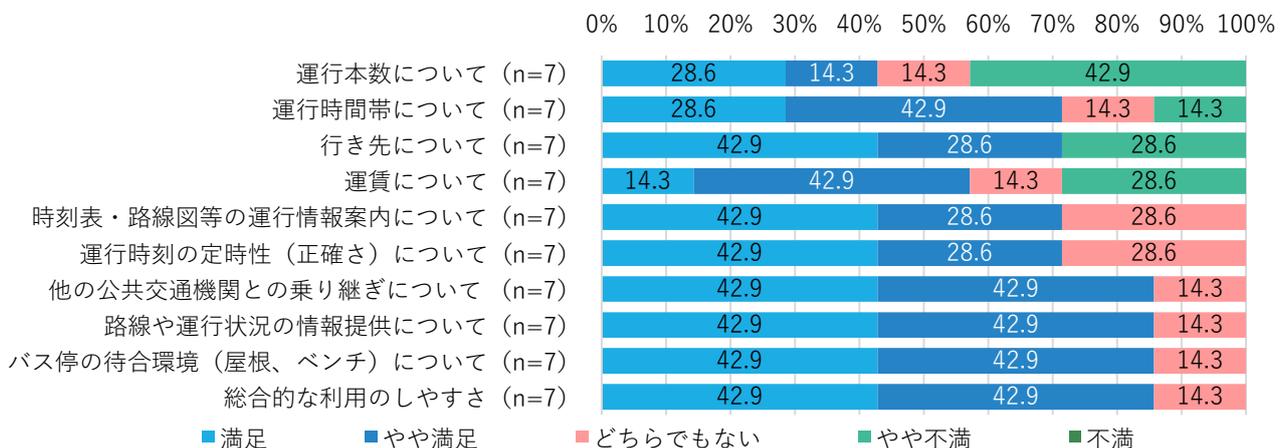
■目的



■利用頻度



■満足度



③路線バス利用者

調査概要	【日時】 2023年7月19日(水) 8:00~15:30 【場所】 御宿駅 【方法】 調査員が駅利用者に対し直接ヒアリング			
回答数	n=2 (※うち1名は回答途中)			
内訳	【性別】			
	男性	1 (50.0%)	女性	1 (50.0%)
	【年齢】			
40歳代	1 (50.0%)	80歳代以上	1 (50.0%)	
内訳	【住まい】			
	町外	1 (50.0%)	無回答	1 (50.0%)

- ・利用目的は「趣味・娯楽」と「通院」となっている。
- ・頻度は「初めての利用」が1名
- ・路線バスに対する要望等は特にない。

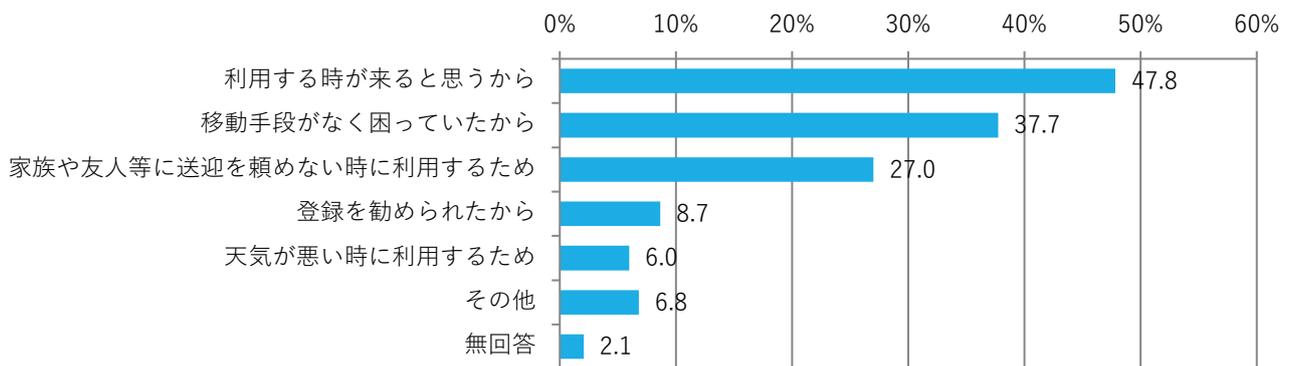
④エビアミー号登録者

調査概要	【日時】 2023年7月19日(水) 8:00~15:30 【場所】 御宿駅 【方法】 調査員が駅利用者に対し直接ヒアリング			
回答数	n=485			
内訳	【性別】			
	男性	176 (36.3%)	無回答	16 (3.3%)
	女性	293 (60.4%)		
	【年齢】			
	10歳代	9 (1.9%)	50歳代	32 (6.6%)
	20歳代	3 (0.6%)	60歳代	48 (9.9%)
	30歳代	4 (0.8%)	70歳代以上	374 (77.1%)
40歳代	9 (1.9%)	無回答	6 (1.2%)	
【住まい】				
まちなか	51 (10.5%)	里海	78 (16.1%)	
御宿台	290 (59.8%)	無回答	2 (0.4%)	
里山	64 (13.2%)			
【職業】				
会社員・公務員	23 (4.7%)	パート・アルバイト	25 (5.2%)	
自営業	7 (1.4%)	無職	304 (62.7%)	
学生	11 (2.3%)	その他	15 (3.1%)	
専業主婦(夫)	87 (17.9%)	無回答	13 (2.7%)	
【自動車運転免許の有無】				
ある	221 (45.6%)	運転免許返納済	66 (13.6%)	
ない	187 (38.6%)	無回答	11 (2.3%)	

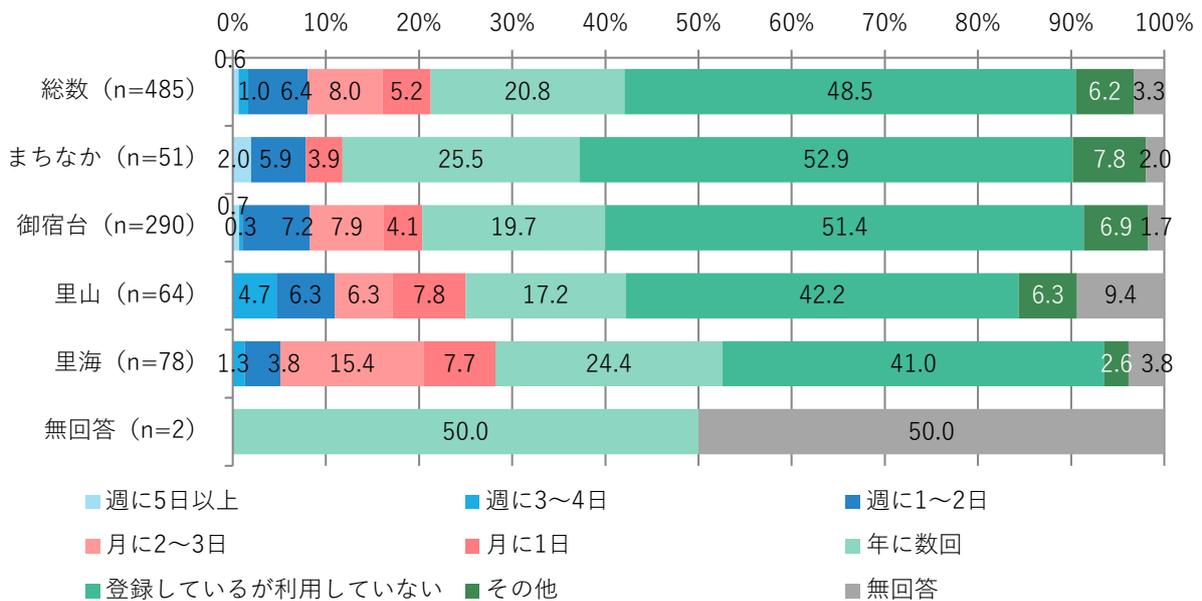
【エビアミー号登録者の利用状況、利用意向】

- ・登録理由は「利用する時が来ると思うから（47.8%）」が半数近くを占めており、次いで「移動手段がなく困っていたから（37.7%）」、「家族や友人等に送迎を頼めない時に利用するため（27.0%）」となっている。
- ・利用頻度は「利用していない」が48.5%と半数近く、次いで「年に数回（20.8%）」と利用頻度が低い状況となっている。地区別に見ると、「里海」が最も利用率が高く52.6%、最も利用率が低いのは「まちなか」で37.3%となっている。一方で、エビアミー号の登録者数は御宿台エリアの居住者が全体の半数以上を占めており、利用者数では御宿台が最も多いと考えられる。
- ・運行便数については、全体として40.6%が「現行どおりでよい」と回答する一方、特に御宿台では「もっと遅い時間まで運行してほしい」「もっと早くから運行し、もっと遅くまで運行してほしい」という回答も多い。
- ・満足度は、「運行時間帯」の不満足度（不満+やや不満）が38.1%と他の項目と比較して高い。
- ・期待することは「予約がなく利用できること（47.6%）」が最も高く、次いで「運行時間帯が拡大すること（43.7%）」、「乗降地点が拡大されること（34.8%）」となっている。

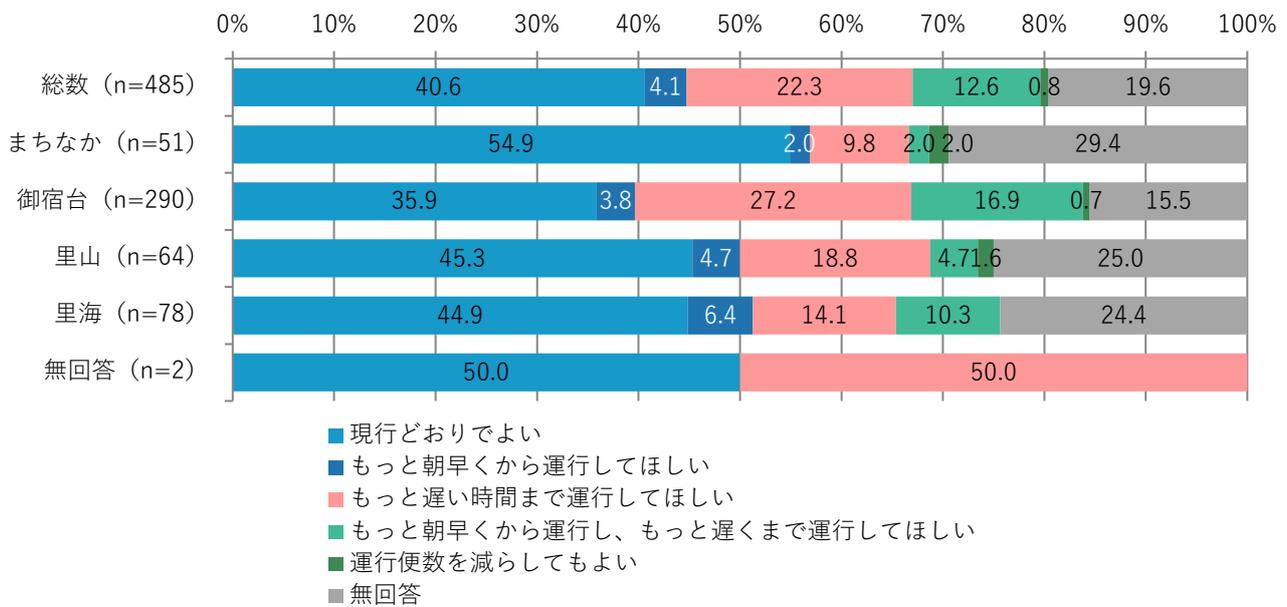
■エビアミー号の利用者登録をした理由（n=485）



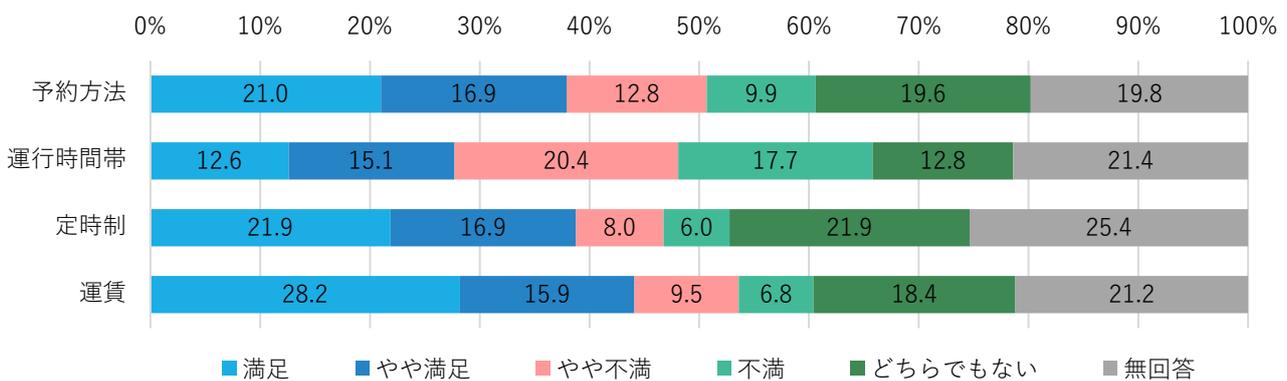
■利用頻度



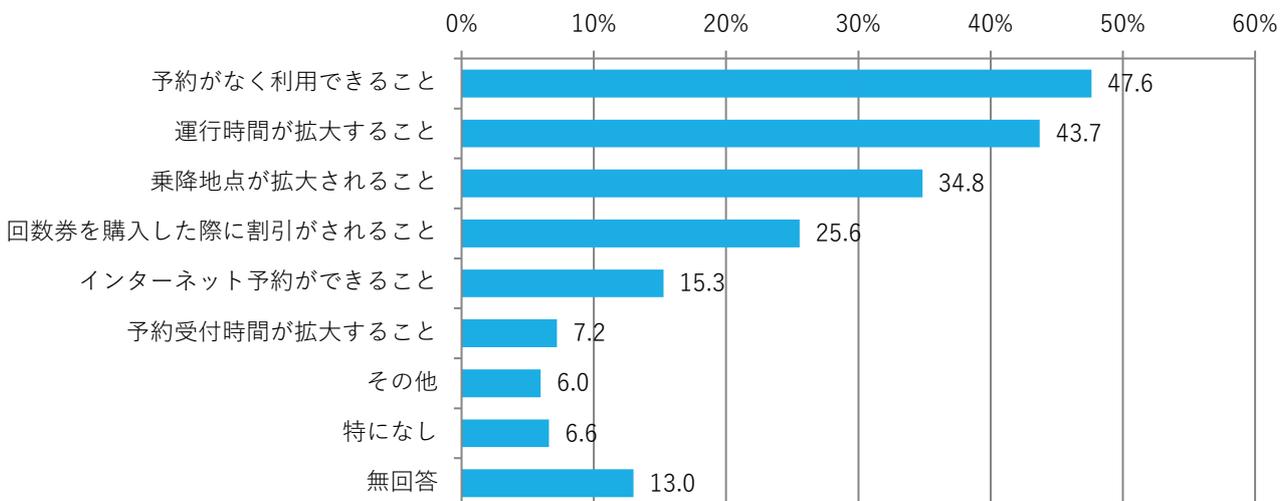
■運行便数についての考え



■エビアミー号の満足度 (n=485)



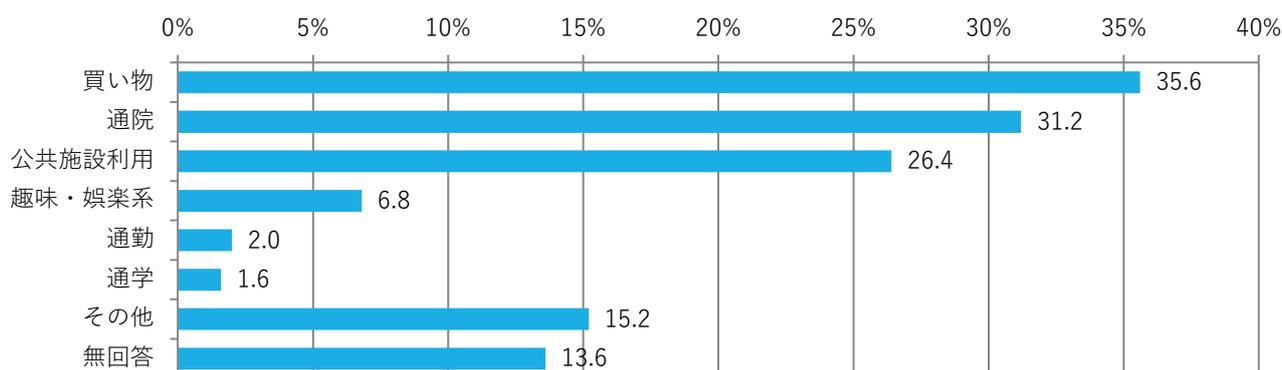
■エビアミー号に期待すること (n=485)



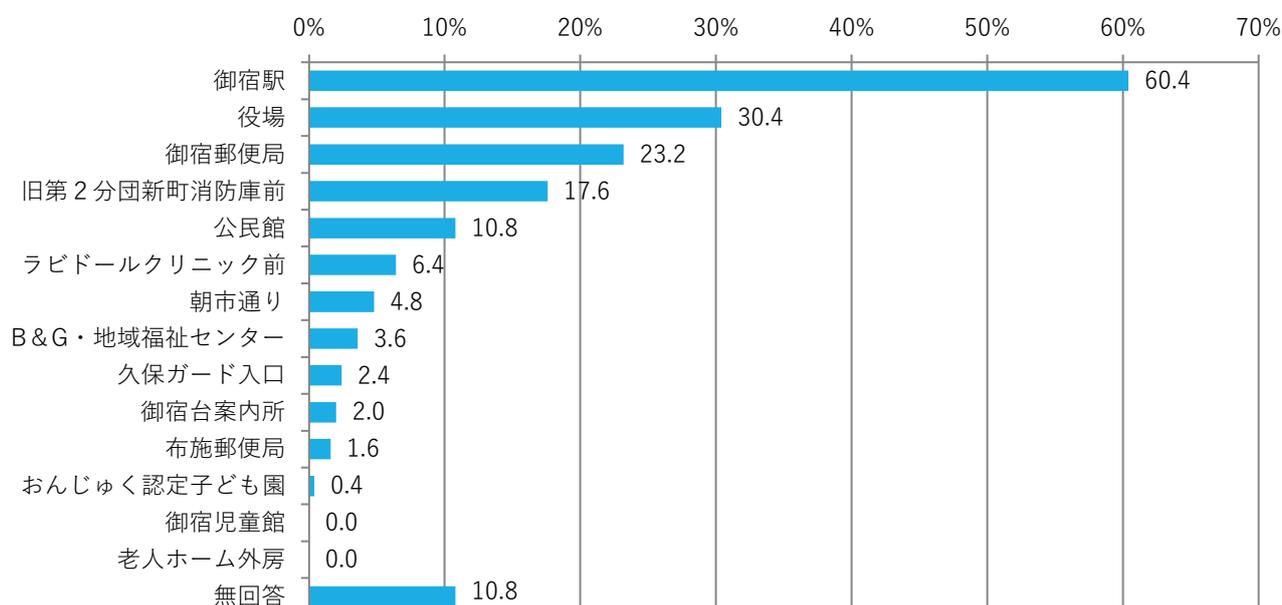
【エビアミー号利用者の利用状況】

- ・利用目的は、「買い物（50.5%）」と「通院（47.4%）」がいずれも半数近く占めている。
- ・主な目的地は「御宿駅（60.4%）」が最も多く、次いで「役場（30.4%）」「御宿郵便局（23.2%）」となっており、スーパーおおたや前の「旧第2分団新町消防庫前（17.6%）」の一定数の利用がある。
- ・利用方法は「片道利用（57.2%）」が「往復利用（28.8%）」よりも多く、特にまちなかや御宿台では片道利用率が高い。片道利用の理由としては「利用したい時間帯に運行していないから（66.4%）」や「事前予約ができなかったから（26.6%）」等が挙げられている。
- ・エビアミー号が利用できない時の代替交通手段としては、「タクシーを利用する（60.8%）」が最も多く、次いで「自転車や徒歩で移動する（29.6%）」、「家族（親族）や知人・友人の方の自動車ですてもらう（27.6%）」となっている。
- ・エビアミー号の位置情報配信サービスについて、「利用したことがある」は21.2%にとどまっている。利用したことがない理由は「サービスを知らないから（43.2%）」「利用の仕方が分からないから（29.0%）」等が挙げられている。
- ・今後のエビアミー号の利用意向としては「今後も変わらず利用したい（62.0%）」「利用回数が増えると思う（10.0%）」が多い一方、「利用回数が減ると思う（2.4%）」「そのうち利用しなくなると思う（3.6%）」といった回答も見られる。

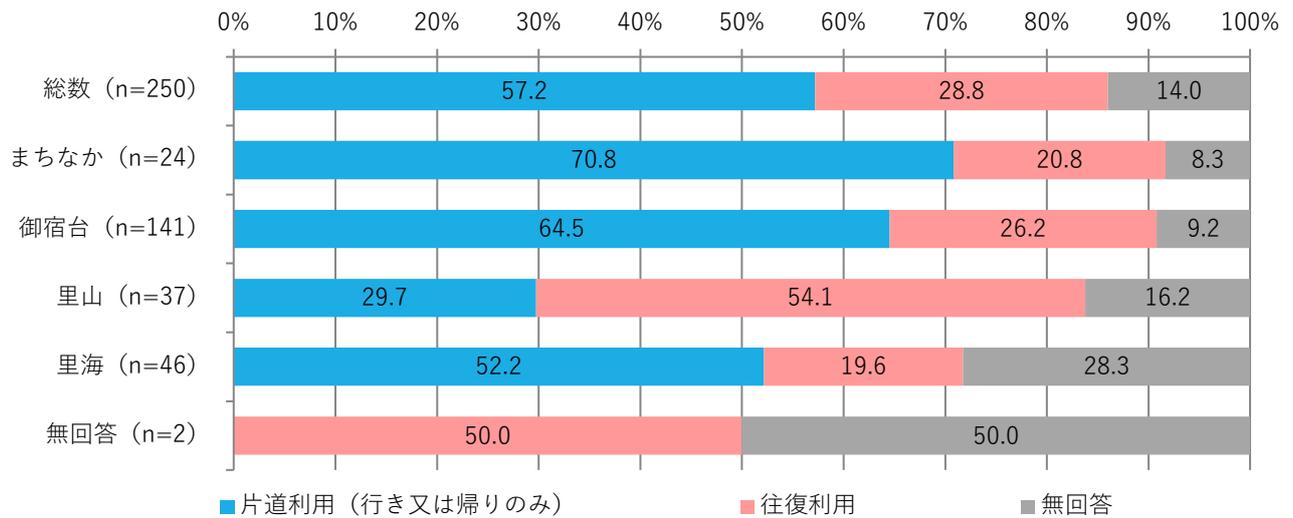
■利用目的（n=250）



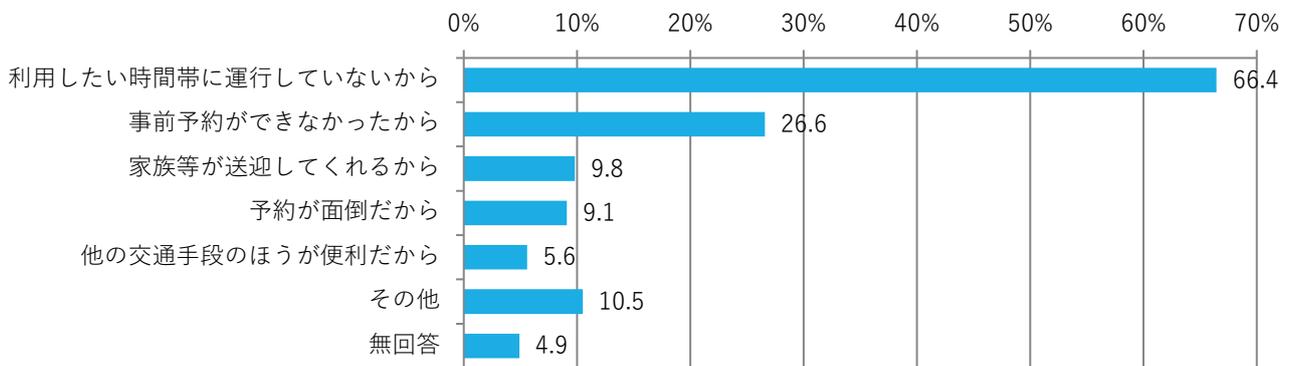
■主な目的地（n=250）



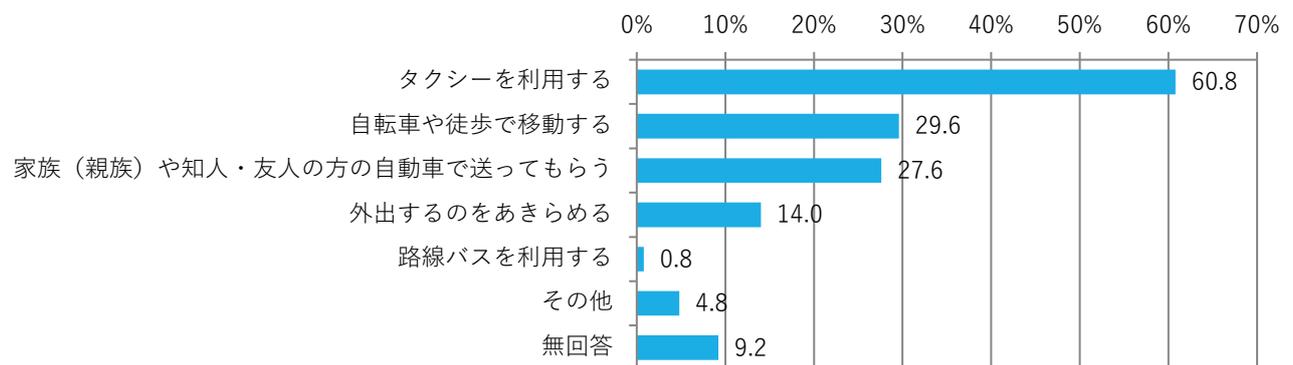
■利用方法



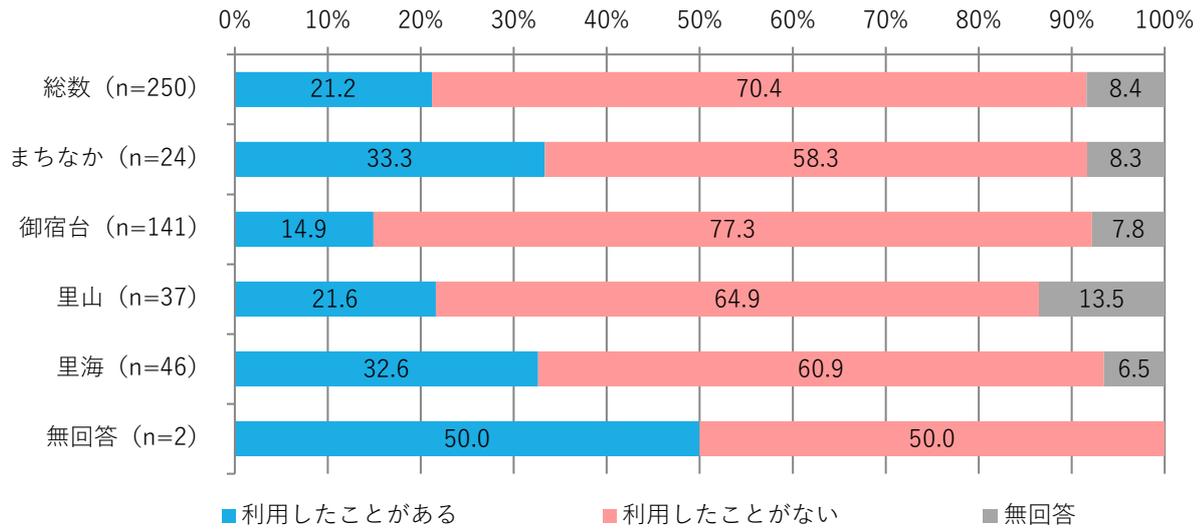
■往復利用しない理由 (n=143)



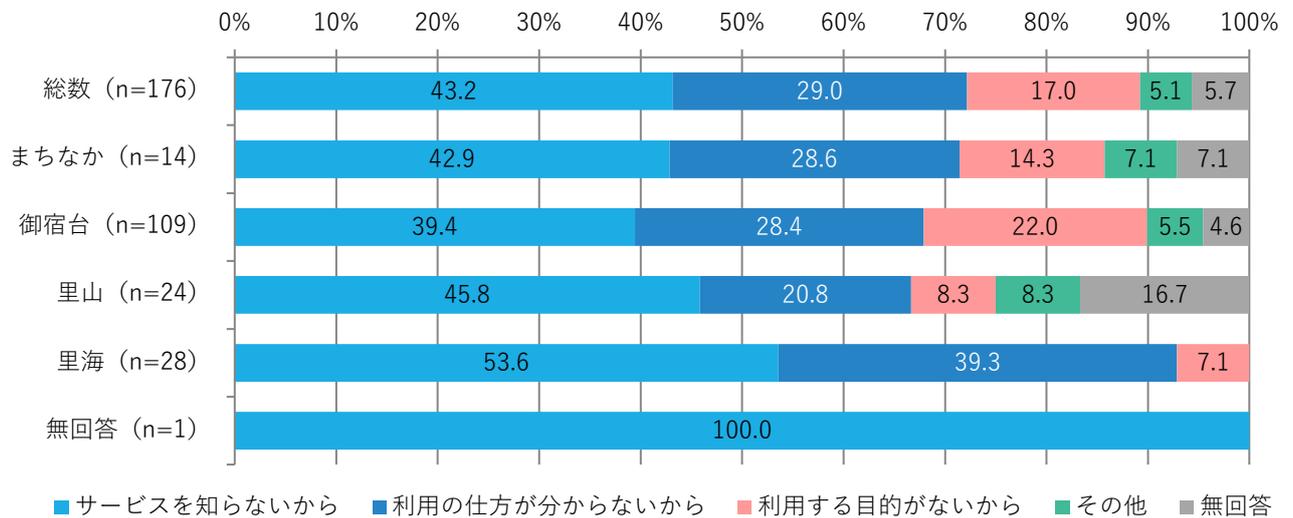
■エビアミー号が利用できない時の代替移動手段 (n=250)



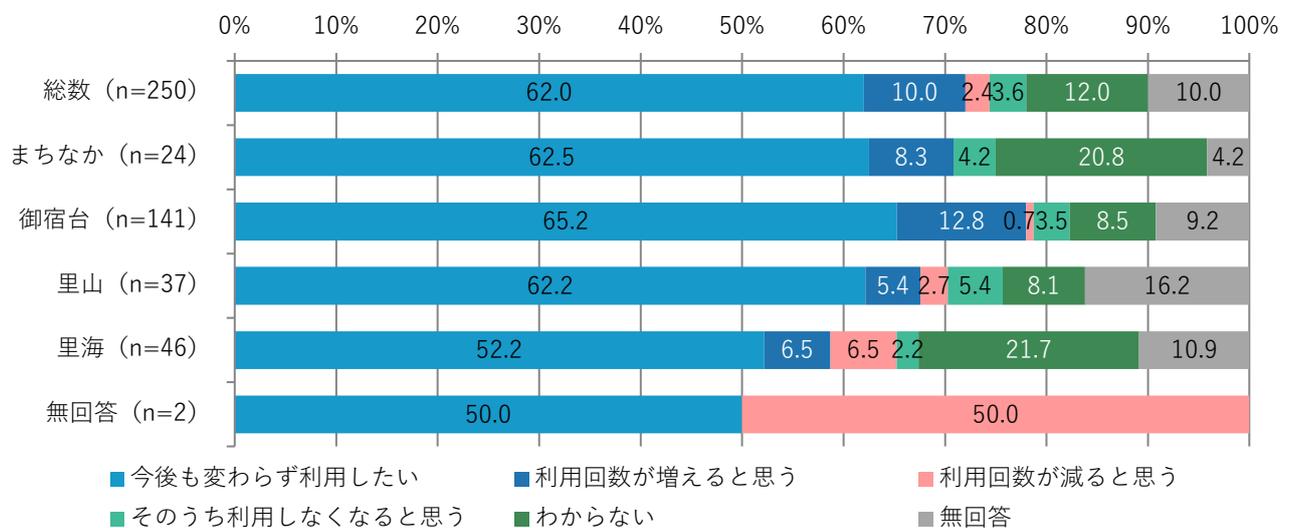
■位置情報サービスの利用有無



■位置情報サービスを利用したことがない方の理由



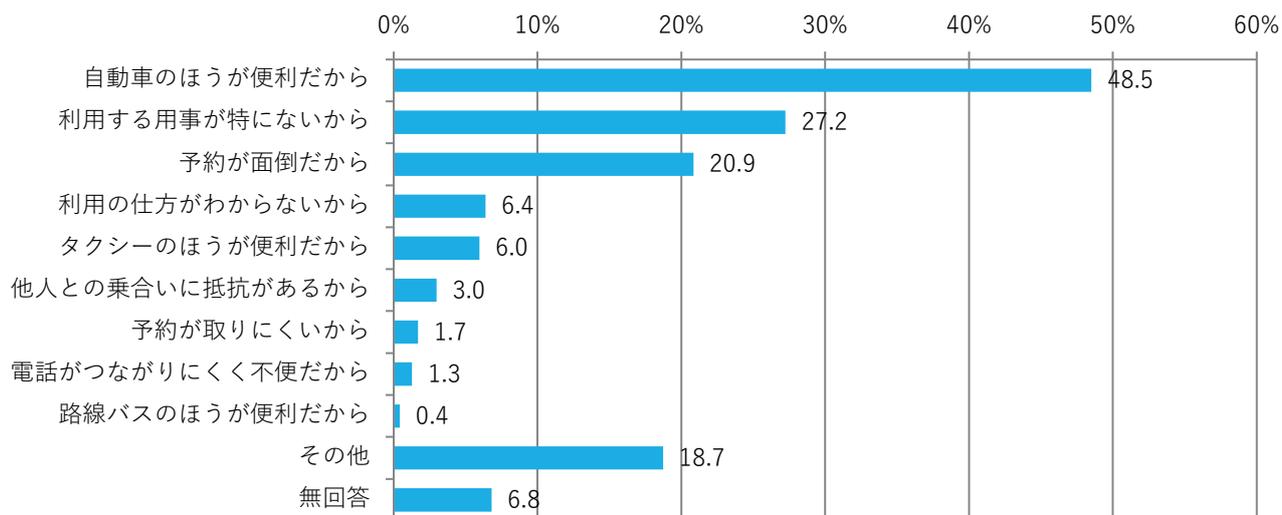
■今後の利用意向



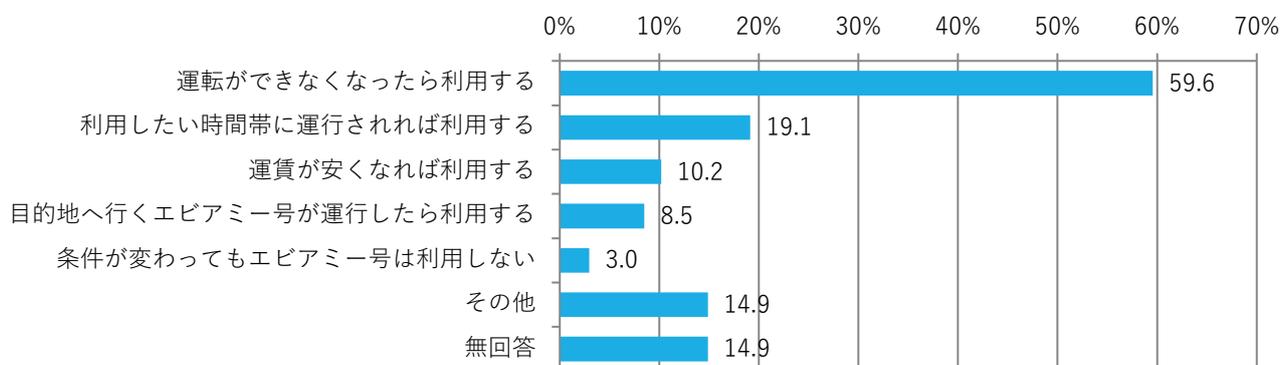
【エビアミー号非利用者の意向】

- ・エビアミー号に利用登録をしているが利用はしていない方の理由としては、「自動車のほうが便利だから（48.5%）」は半数を占めており、次いで「利用する用事が特にないから（27.2%）」「予約が面倒だから（20.9%）」となっている。
- ・利用するための条件としては「運転ができなくなったら利用する（59.6%）」が最も多く、「利用したい時間帯に運行されれば利用する（19.1%）」「運賃が安くなれば利用する（8.5%）」となっている。

■利用しない理由（n=235）



■エビアミー号を利用するための条件（n=235）



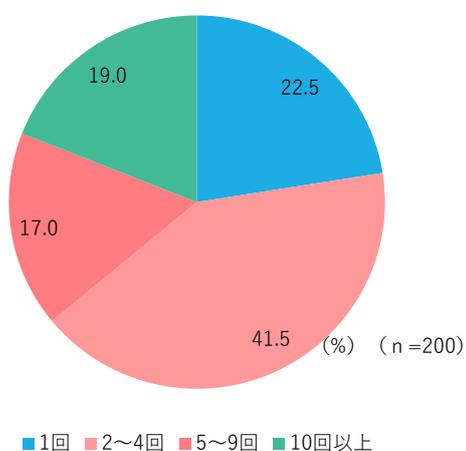
(4) 旅行者アンケート調査

調査概要	【日時】 2023年7月14日(金)～2023年7月19日(水) 【方法】 WEBアンケート 【対象】 東京都、千葉県(御宿町を除く)、神奈川県居住で御宿町に訪れたことがある方			
回答数	n=485			
内訳	【性別】			
	男性	129 (64.5%)	女性	71 (35.5%)
	【年齢】			
	20歳代以下	21 (10.5%)	50歳代	59 (29.5%)
	30歳代	25 (12.5%)	60歳代以上	55 (27.5%)
40歳代	40 (20.0%)			
内訳	【住まい】			
	東京都	89 (44.5%)	神奈川県	43 (21.5%)
	千葉県	68 (34.0%)		
内訳	【自動車運転免許の有無】			
	ある	183 (91.5%)	運転免許返納済	2 (1.0%)
	ない	15 (7.5%)		

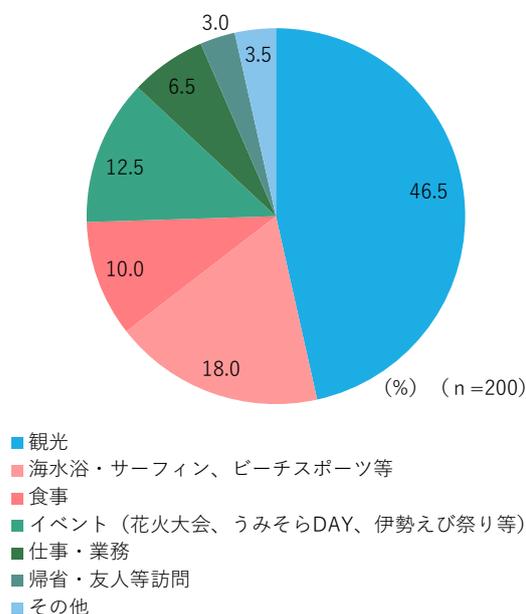
【御宿町への来訪状況】

- ・来訪回数は「2～4回(41.5%)」が最も多い。
- ・来訪目的は「観光(46.5%)」が半数を占めており、来訪先としては「月の沙漠記念館(56.2%)」「御宿ウォーターパーク(42.3%)」「中央海水浴(39.2%)」となっている。
- ・来訪時の交通手段は、「自家用車(77.5%)」が最も多く、次いで「鉄道(30.5%)」「高速バス(11.5%)」となっている。

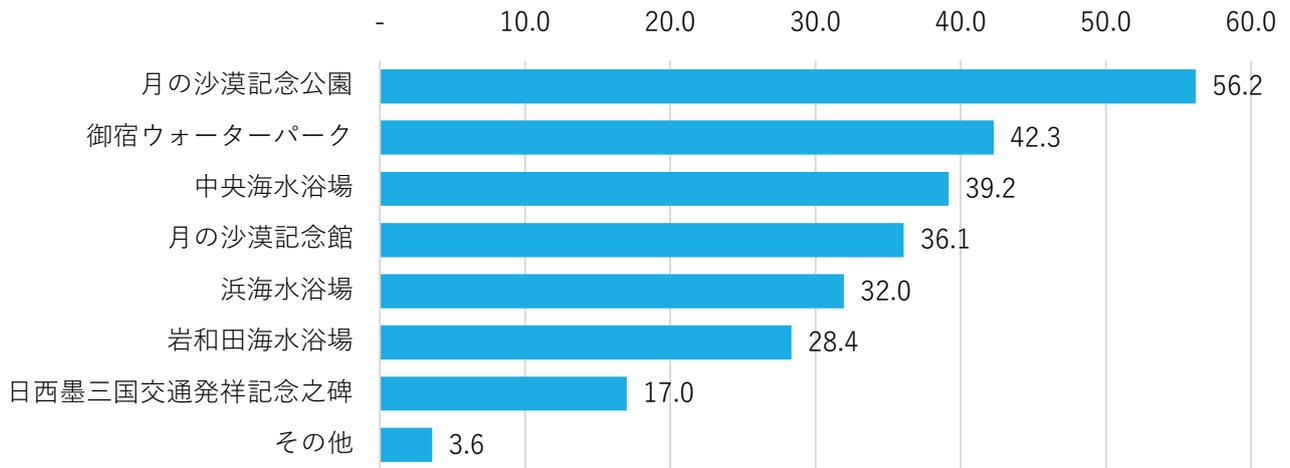
■来訪回数



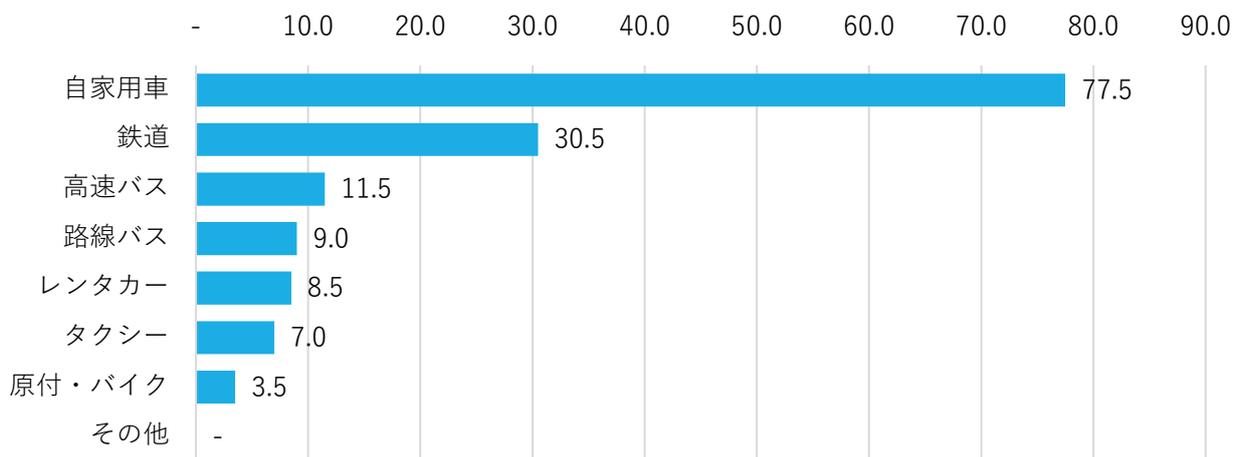
■来訪目的



■ 来訪先 (n=200)



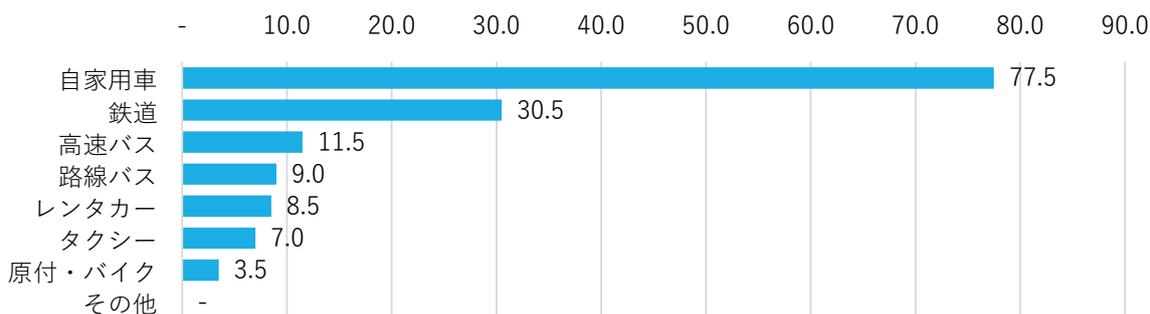
■ 来訪時の交通手段 (n=200)



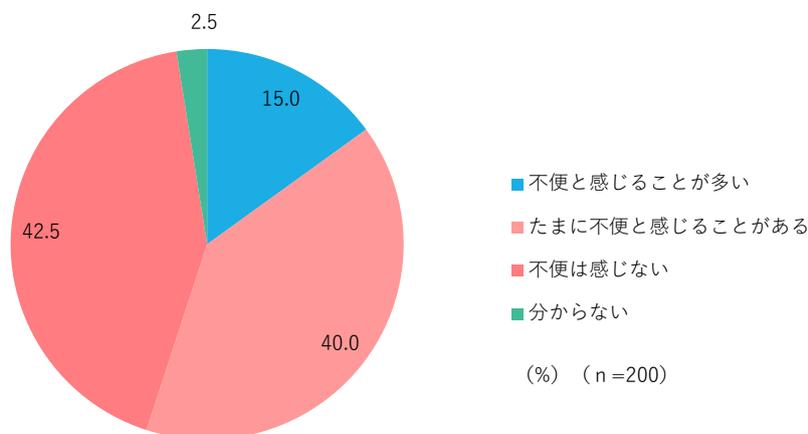
【観光周遊する際の不便度や必要情報・サービス】

- ・観光周遊する際の交通手段は、「自家用車（77.5%）」が最も多く、次いで「鉄道（30.5%）」「高速バス（11.5%）」となっている。
- ・移動時に不便を感じることの有無としては、「不便を感じることが多い」「たまに不便と感じることもある」と回答した方が全体の55.0%となっており、半数以上が不便を感じたことがある結果となっている。
- ・必要な情報やサービスは「観光地のモデルコースの紹介など情報案内等の充実（41.5%）」、次いで「観光地等でのイベントや施設情報などの統一的な情報の提供（38.5%）」となっている。

■周遊の際の移動手段



■移動時の不便の有無



■必要な情報やサービス



(5) 事業者アンケート

調査概要	<p>【日時】 2023年8月25日（金）～2023年9月4日（月）</p> <p>【方法】 郵送またはメールによる送付・回収</p> <p>【対象】 交通事業者、関連事業者、近隣自治体</p>
------	---

①交通事業者

事業者名	内容
鉄道	<p>■利用者の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性や傾向としては下記の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> 平日：通勤者（6時30分～8時15分、18時15分～20時頃） 高校生（6時30分～8時頃、17時30分～19時頃） 土日祝：観光客（8時30分～11時30分頃、14時40分～18時20分） ・特急「わかしお」は平日の日中帯、土休日含め夜間の上り列車の利用が少ない。 ・少子高齢化やモータリゼーションの進展、新型コロナウイルスを契機としたライフスタイル等の変化による利用者の減少。戻りつつあるが、厳しい状況が続く。 <p>■運行上・経営上の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通列車は、2020年12月18日より日中帯を中心に上総一ノ宮～安房鴨川～木更津間で直通ワンマン（運転士のみ）運転を新型車両にて開始。現在では運行体系や上総一ノ宮駅での乗り換えも含め認知され受け入れられている。 ・持続的な公共交通ネットワーク維持のためには、自治体や地元の皆様のご理解ご協力を得ながら、利用状況を踏まえた列車ダイヤの見直し、設備のスリム化など様々なコストダウンに取り組む必要がある <p>■利用促進・利便性向上・経営改善等のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伴走型地域づくりとして、御宿町へ乗車人員・収支状況の説明を行い、現状認識を共有し利用者増に向けたコミュニケーションを取っている。 ・おんじゅくつるし雛めぐりに併せた「駅からハイキング」の設定、開催や臨時特急列車の運行、バリアフリーについての話し合い等。 <p>■利用者からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの窓口や指定席券売機について。 ・コインロッカーの有無。 ・エレベーター等の設置要望。 <p>■他の交通事業者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弊社列車の発着時刻を参考にダイヤを組まれていると認識しているため、可能な限り前広な情報共有に努めたい。また、意見交換会が必要。 <p>■行政への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用状況等を踏まえ施策へのご理解・ご協力をお願いしたい。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続的な公共交通ネットワーク維持のために、駅舎活用を検討していく必要がある。町の施策なども踏まえて意見交換が必要。

<p>高速バス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・平日は6時台に通勤者の利用が多く、土日祝日は観光客が平日より多い。 ・観光客が多い。 ■高速バスの運行見直しの可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・現状変更の予定はないが、運行時間の見直しを検討している。 ■利用者からの声 <ul style="list-style-type: none"> ・便数を増やしてほしい。 ・木更津金田バスターミナルでの乗降 ■他の交通事業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・高速バスと他の交通サービスを同時利用した際の、他の交通サービスでの割引及び割引分の補填をお願いしたい。 ■行政への要望 <ul style="list-style-type: none"> ・他の市町ではなく、行き先に御宿を選んでもらうよう町の魅力を発信してほしい。他の自治体が展開しているような、高速バスのラッピング広告実施を検討してほしい。
<p>路線バス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・平日は買い物、市外への通院（塩田病院）の高齢者が多く、土日祝日は買い物客や観光客が多い。 ■運行上・経営上の問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・赤字での運行となっており、赤字路線として路線を維持することが難しくなっている。 ・乗務員の不足に加え、外房地区は定年後再雇用の嘱託社員が多く、乗務員高齢化問題が内房地区の営業所よりも深刻である。 ・車両の経年劣化による車両の代替では、各種メーカーのトラブルにより代替が計画通りに行われていない。 ・キャッシュレス決済については、イニシャル・ランニングコストの両面から IC の導入をしても、費用の回収は難しい。IC 以外のキャッシュレス決済も含めて導入について検討するが、導入コスト運用コストが回収できるか不安がある。 ・人口減少により乗客の減少、コロナウイルスの影響で路線収入は減少するも、令和3年度以降、観光客増加の影響もあり、運送収入が好転するも、一般路線においては依然赤字路線となっており、コロナウイルスの影響前の水準に戻っていない。 ■町内の走行環境における問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・夏期の土日祝は海水浴・ウォーターパーク等観光客の増加に伴い混雑が発生。 ■他の交通事業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・高速バスと他の交通サービスを同時利用した際の、他の交通サービスでの割引及び割引分の補填をお願いしたい。 ■行政への要望 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の収支状況によっては路線バスシステムの再編、便数の減少、系統や路線を廃止し、例えば登録者以外でも予約可能とする等、デマンドサービスの対象者拡大に

	舵を切ることを提案していきたい。
エビアミー号	<p>■利用者の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院への通院、スーパー等商業施設への利用が大半であり、郵便局・銀行といった金融機関や町役場等の行政機関への利用が次点。 ・利用者数も増加傾向にあり、直近3ヶ月は月500人以上の利用を記録している。 <p>■運行上・経営上の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗務員の不足、高齢化は路線バスと同様。 ・ワゴンタイプの輸送のため、狭い道への進入ができないこと、回転もセダンタイプよりもスペースを要すること。
タクシー	

②関連事業者

事業者名	内容
商工会	<p>■現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により減少した観光客が、コロナ前の水準まで回復していない。観光業だけでなく商業にも影響しており売上は減少している。地元のお客さんも高齢化により来店者数が減少している。 <p>■公共交通と連携・協力した取組みの可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御宿町商店振興会がポイントカードを新しくする予定である。エビアミー号の利用者にポイントを付与していただけると商業施設利用者が増えるのではないかな。 <p>■来訪者や商業施設からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道が存続するためには、運賃を値上げして、行政が負担するだけでなく、利用者の負担増加も仕方のないこと。 <p>■行政への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会員には介護タクシー事業者がいるので、配慮していただきながら公共交通を発展してほしい。 ・エビアミー号の目的別利用者を集計されているが、「自宅⇒降車地」「乗車地⇒自宅」で分けて乗降地を集計してほしい。
観光協会	
社会福祉協議会	<p>■高齢者や障がい者からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手続きをもう少し簡略化し、気軽に使えるようにしてほしい。 ・乗降しやすくするためワンステップにしてほしい。 ・障がい者や下肢機能が低下した高齢者が利用できない場合がある。 <p>■公共交通と連携・協力した取組みの可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当会で行う事業等での案内・意見徴収などは可能。 <p>■行政への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 御宿駅のみどりの窓口を再開してほしい。 ・御宿駅の駐車料金をもう少し安くしてほしい。 ・車椅子で乗ることができない。 ・夜間の公共交通が不足している。

教育委員会	<p>■既存のスクールバスの混乗可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御宿小学校の更新協議の中でスクールバスの運行について検討し、御宿台、実谷・七本、上布施高山田区が運行区域となるが、スクールバスの住民混乗は検討していない。実際にスクールバスが運行してから子どもの数等により判断となる。スクールバスの運行時間以外での利用は可能。 <p>■路線の設定における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線は大通り（国道、1・2級町道）の運行を基本としているので、停留所の場所、運行時間、下校時の低学年、高学年を分けての運行について考える必要がある。 <p>■児童・生徒・保護者からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行に関する声はあるが、自家用車の運転ができる保護者が多いため、公共交通の要望はない。 ・公共交通としてスクールバスの運行は考えていないが、長年の町の取組を経て現在のエビアミー号の運行となっている。 <p>■公共交通と連携・協力した取組みの可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去から現在までの町の取組、住民の利用状況、スクールバス自体がこども園の運行である。
商業施設	

③近隣自治体

事業者名	内容
いすみ市	<p>■地域公共交通の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域アクセスやまちづくりとの連携を図った利便性の高い公共交通網の構築 ・各公共交通機関同士の相互連携や、誰もが利用しやすい環境整備による利便性の向上 ・多様な主体との連携によるまちづくりと一体となった持続可能な公共交通の形成 <p>■課題解決に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内循環バス、いすみシャトルバス、市民のりあいタクシーの利便性向上とタクシーの利用促進 ・JR外房線、いすみ鉄道の利用促進 ・交通結節点（大原駅・長者町駅・太東駅・国吉駅）の機能強化 ・誰もが利用しやすい車両の導入検討 ・JRやいすみ鉄道にあわせたダイヤ改正や延伸を行い、利便性向上や利用促進を図った。
勝浦市	<p>■収支改善・利用促進のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンドタクシーについては利用者アンケート等によりニーズを把握しサービスの見直しを継続的に検討する。 ・路線バスダイヤの見直しやモビリティ・マネジメントの推進により「既存の交通インフラの有効利用」についての認識を深め、地域住民や企業など地域全体で公共交通を維持していく機運の醸成を図る。 <p>■地域輸送資源の総動員としての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象として運行するスクールバスへの高校生の乗車について検討 <p>■御宿町との連携の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦市と御宿町を結ぶバス路線のデマンド交通へのモード変更などについて協議させていただきたい。
大多喜町	<p>■地域公共交通の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内交通不便地域の散在 ・大多喜市街地内及び市街地隣接地区からの市街地への公共交通機関の不足 ・人口減少、車社会化等による公共交通利用者の減少、路線数及び運行本数の減少 <p>■課題解決に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした鉄道の割引回数券の設定 ・公共交通機関に対し、経常損失額の一部を補助 ・養老溪谷方面への臨時バスの運行 ・町内交通不便地域へのデマンド型乗合交通の導入 <p>■収支改善・利用促進のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア会員制度補助金 <p>いすみ鉄道では、町内在住の60歳以上の方について、シニア会員として登録した場合、町内区間に限り1乗車当たり100円で利用できる回数券を設定している。町から鉄道に対し、正規運賃との差額分を補助している。</p>

	<ul style="list-style-type: none">・利用増大対策事業補助金 いすみ鉄道が利用増進のため町内で実施するイベント、PRに係る費用、町内の保育園・小中学校等の団体が鉄道を利用する際の運賃について、補助金を交付している。■地域輸送資源の総動員としての取組・平成 30 年 10 月から、中学校統合に伴い運行を開始したスクールワゴンの空き時間を活用し、交通不便地域にデマンド型乗合交通を運行している。
--	--

6. 地域公共交通の課題

(1) 現状と課題の整理

御宿町の現状



- ・令和5年の総人口は6,673人となっており、過去5年間で減少傾向。高齢化率は国・千葉県と比較してもその値は高く50%を超えている。
- ・御宿駅を核とした中心市街地と、里海エリアである海岸沿いにかけて人口が集中。北西部の里山エリアでは比較的人口が少なく過疎化が進んでいる。
- ・通勤・通学流動は、流出・流入ともに隣接するいすみ市と勝浦市の割合が高い。
- ・日常生活の利便施設は、まちなかエリアと里海エリアに機能が集積し、里山エリアは集客機能が低い状況。

地域公共交通の現状



- ・鉄道及び高速バスは新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にあったが現在は徐々に回復傾向となっている。路線バスは利用者数が戻らず、交通事業者の経営を圧迫している。
- ・エビアミー号は利用者及び運賃収入は増加傾向にある一方、乗合率の向上が課題となっている。
- ・公共交通に関する財政負担は増加傾向にあり、利用促進や公共交通の転換等による運賃収入の増加が求められる。

上位関連計画



- 第5次御宿総合計画～みんなで創るみんなのONJUKU2030～
 - ・誰もが利用しやすい地域交通となるよう、鉄道及び路線バス等の維持・充実にに向けた取組みを進める。
- 御宿町人口ビジョン及び御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略
 - ・持続可能な地域公共交通の確保と利用促進

意向把握調査



- 町民アンケート調査
 - ・通勤・通学時の移動手段として、30代、40代では自家用車が8割を超えている。10代、20代では他の年齢層と比較して鉄道の利用率が高い傾向。
 - ・日常生活の移動では、通勤・通学、通院、買物のいずれにおいても御宿町外を行き先とすることが多い。
 - ・公共交通の利用意向として、30～60歳代では「利用したいと思わない・利用しない」が最も多いが、10・20歳代では「日常的に利用している」が最も多い。また「現在は利用していないが、今後利用したい」は年齢が上がるにつれて割合が増えている。
- ワークショップ
 - ・
 - ・
- 公共交通の利用者に対するアンケート調査
 - ・鉄道利用者の「通勤」「通学」での利用が多く、利用者からは「運行時間帯の拡大」「運行本数の増便」「エスカレーターやエレベーターの設置」に関する要望が多い。
 - ・高速バスに対して利用者からは、「運行本数の拡大」「行き先」に関する要望が多い。
 - ・エビアミー号は登録者の内、約半数が実際に利用をしていない。地区別では、「里海」の利用率が最も高く、「まちなか」の利用が最も低い。登録しているが利用しない理由としては「自動車の方が便利」「利用する用事が特にない」「予約が面倒」等である。
 - ・エビアミー号利用者の目的地は「御宿駅」が多い。今後の利用意向としては「今後も変わらず利用したい」「利用回数が増えると思う」が多い。
 - ・エビアミー号に期待することは、「予約がなく利用できること」「運行時間帯が拡大すること」「乗降地点が拡大されること」等が挙げられている。
- 旅行者アンケート調査
 - ・旅行者の来訪時の交通手段及び観光周遊の際の交通手段は「自家用車」が8割近く、次いで「鉄道」「高速バス」となっている。
 - ・全体の半数以上が移動時に不便を感じたことがあると回答しており、必要なサービスとして「情報案内等の充実」「統一的な情報の提供」等が挙げられている。
- 事業者アンケート調査
 - ・
 - ・

地域公共交通の課題

課題①
高齢者や学生等の日常生活
における移動手段の確保

課題②
地域の特性に応じた
交通サービス・交通環境の提供

課題③
近隣市町村との連携による
広域アクセスの利便性向上

課題④
多様な主体・他分野との
連携による利用促進

(2) 公共交通の課題

課題① 高齢者や学生等の日常生活における移動手段の確保

本町の人口は年々減少傾向となっており、国や県全体と比較して高齢化率も高いことから、今後も人口減少が進んでいくことが予想される。町民アンケートからも分かるように、10歳代・20歳代では日常的に公共交通を利用しており、また年齢層が上がるにつれて今後公共交通を利用したいという意向が増えている。高齢者や学生等、交通弱者の日常生活における移動手段の確保を行うとともに、高齢化への対応として、バリアフリーの推進等の公共交通の環境整備が必要である。

課題② 地域の特性に応じた交通サービス・交通環境の提供

本町では、鉄道、高速バス、路線バス、エビアミー号、タクシーの他、スクールバスや民間送迎バス等の多様な交通システムが運行されている。

町内のエリア毎のニーズに考慮した運行サービスの見直しを行うとともに、御宿駅や御宿公民館等における交通機関同士の乗り継ぎ利便性の強化、運行情報案内の充実等、交通結節点として分かりやすく利用しやすい環境整備を行うことで、地域公共交通全体の満足度向上を図ることが必要である。

課題③ 近隣市町村との連携による広域アクセスの利便性向上

本町では、通勤・通学や通院、買い物等の日常生活において御宿町外を行き先とすることが多く、特に隣接地域であり、医療・商業施設などの集客施設が多数立地するいすみ市と勝浦市との往来が多い状況である。こうした実情を踏まえ、鉄道や高速バスとの乗継強化やエビアミー号の町外への乗り入れ等を検討し、近隣市町村との連携体制の構築による広域アクセスの利便性向上が必要である。

課題④ 多様な主体・他分野との連携による利用促進

新型コロナウイルス感染症や人口減少等の影響により、交通事業者や財政負担が増加する中で、今後生活交通のみで地域の公共交通を維持していくことは困難である。

住民意識の醸成による自家用車から地域公共交通の利用転換や、情報発信の強化・観光バスの導入検討等の観光産業との連携、また岩和田団地の跡地活用を見据えた新たなニーズや連携可能性も視野に入れながら多様な主体・分野を巻き込んだ公共交通の利用促進が必要である。